令和３年度

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）
「目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践」

研究開発実施報告書
第３年次

令和４年３月

高知県立室戸高等学校
Muroto High School

は　じ　め　に

高知県立室戸高等学校長　藤田　勇人

室戸高等学校では、先の見えない変化の激しい時代の中で、地域への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、グローバルな視点をもって地域の発展に貢献できる人材の育成を目指しております。「着眼大局着手小局」、「Think Globally, Act Locally」といった資質・能力を身に付けた人材が本校における理想とする将来の生徒像でもあり、本事業において、こうした人材育成のプログラム開発に取り組んでまいりました。

本校が位置する室戸市全域は世界ジオパークネットワークGGN（Global Geoparks Network）に加盟し、室戸ユネスコ世界ジオパークに認定されています。本校は室戸市唯一の高等学校として、地域理解と地域の課題発見解決学習を行うため、総合学科としての科目「産業社会と人間（室戸学）」や学校設定科目「ジオパーク学」など特色ある科目を設置し、室戸ユネスコ世界ジオパークに関わってきました。これらの取組を軸に据え、海外交流に取り組み、活動を広げる計画を推進してまいりました。

令和２年度からは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、ＩＣＴを活用した交流事業に切り替えながら、ジオパークの観点から近隣の県市にも視点を向け、実体験のプログラムへと見直しを行いました。併せて、ユネスコ世界ジオパークを題材とした教科横断的な視点を入れた学習活動にも取り組んでまいりました。

令和３年度、３年間の事業計画のまとめとして企画した「ユネスコ世界ジオパーク高校生国際交流会」は、当初の計画を大幅に変更し、オンライン開催となりましたが、海外からは、動画で参加いただいたボヘミアンパラダイスユネスコ世界ジオパーク（チェコ共和国）、ランカウイユネスコ世界ジオパーク（マレーシア）、そして国内からは、北海道、新潟県、和歌山県、島根県、鹿児島県、徳島県、高知県から９校の高校生に参加いただき、「(私たち高校生が) 地域の主体であり続ける」という大会宣言が採択されるまでに至りました。

さらに、室戸ジオパーク推進協議会と連携協定を締結し、本事業が終わっても地域と共に課題を解決する探究の取り組みが継続できるよう確認したことは大きな成果のひとつとなっています。生徒一人ひとりが自分自身にできることを考え、実践していく力を身に付け、課題解決につながる多様な価値観を持って行動変化につなげる取組になるよう、さらには室戸ユネスコ世界ジオパーク地球活動遺産の保護と活用の推進につながるよう今後も継続的な取り組みを進めてまいります。

生徒数がさらに少なくなっている現状もありますが、地域唯一の高等学校として地域が一体となって支援してくださっている高等学校でもあります。生徒が地域の財産を見つけ、いかにして貢献できるかを探究し続けてきた本事業での経験が、現在も学習の教材として大きな学びの場を与えてくれています。

今後も、学校と地域が一体となり、未来を担う生徒たちの教育を進めてまいります。

この事業を無事に終えるにあたり、多大なご支援いただいた室戸市をはじめとする関係の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

目次

は　じ　め　に

Ⅰ．事業の概要 1

（１）研究の背景 1

（２）研究開発概要 1

（３）コンソーシアム 1

（４）運営指導委員会 2

（５）海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員 3

（６）その他の主な支援団体 3

（７）研究開発の実績 3

①　研究開発 4

②　地域課題研究 5

③　カリキュラム開発及び実践 5

④　成果と評価 5

（８）ユネスコ世界ジオパーク高校生国際交流会 6

Ⅱ．グローカル人材育成のための実践 13

（１）特色ある科目の実施 13

①　産業社会と人間 13

②　続・産業社会と人間 16

③　課題研究 21

④　ジオパーク学 26

（２）地域と連携した活動 29

（３）交流活動 37

（４）ボランティア活動 41

（５）大会、コンテスト 45

Ⅲ．次年度以降の自走の取組 53

別添資料 54

（１）ビジュアル資料 54

（２）研究開発概要 55

（３）室戸高校版 ESD カレンダー 57

（４）室戸高等学校地域協働学習コンソーシアム 規約 58

（５）室戸ジオパーク推進協議会との連携協定書 59

（６）教育論文 60

Ⅰ．事業の概要

（１）研究の背景

高知県室戸市では少子高齢化が急速に進み、市としては現在全国で５番目に少ない人口となっている。また、高齢化が進み、雇用の減少などの課題を抱えており、これからの室戸市を支える人材育成が喫緊の課題である。過疎化が進む本市に元気を取り戻すには、地域の人材育成に向けた組織的・継続的な取組が必要であり、その仕組みづくりが急務である。

室戸地域は室戸ユネスコ世界ジオパークに認定されており、これが地域の大きな特色ひとつとなっている。世界ジオパークの基本理念は、地域に残る自然遺産及び文化遺産をツーリズム、教育、防災などに活かすことで地域経済の持続可能な発展を目指すという部分にある。そこで、本研究においては、ユネスコ世界ジオパークに関わる地域唯一の学校として、その資源を有効に活用し、世界のさまざまな地域と関わることで、グローバルな視点で物事を捉えることができる資質・能力を持つ人材を育てたいと考えた。

これまで室戸高等学校は、地域への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、地域の発展に貢献できる人材の育成を目指しており、室戸ユネスコ世界ジオパークに関わる地域唯一の高等学校（総合学科）として地域理解と地域の課題発見解決学習に取り組んでおり、地域教育や資源の保護・保存にもこれまで大きな役割を担ってきた。現在の地域課題の解決の取組に加え、高等学校、地域、高等教育機関、産業界等が協働してコンソーシアムを構築して生徒による地域課題の解決等への探究的な学びを促すことで、グローバルな視点を取り入れた教育をさらに推進し、生徒一人ひとりが自分にできることを考えて実践していく力を身に付け、世界的な視野を持って地域で活躍できる人材を育成することを目標とし、本事業に申請した。

（２）研究開発概要

ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）の視点で地域貢献につながる活動を体系化する。また、ジオパークを題材にした海外交流体験によるグローバルな視点を加えた、カリキュラム・マネジメントを開発し、本校がこれまで取り組んできたキャリア教育によって培われてきたキャリアを形成する基礎的・汎用的能力をさらに向上させる。

総合的な探究の時間や、学校設定科目「ジオパーク学」、キャリア教育や探究活動の取り組みをさらに発展させ、人とのつながりの深化、地域への貢献を目標としたカリキュラム・マネジメントの開発に取り組む。さらに、ＥＳＤの視点で地域貢献につながる取り組みを体系化するとともに、ユネスコ世界ジオパークのつながりで国内外の関係機関との交流に取り組み、生徒が積極的に活動する機会を与える。

これらの取組によって、将来、地域産業を支えるグローカル人材を育成する。

（３）コンソーシアム

従前から国際関係の取組を企画・運営してきた国際交流推進委員会をＥＳＤの視点で見直し、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員、ＥＳＤ専門加配教員を加え再編成を行った。

また、地域や関係機関との連携のため、室戸市教育委員会をはじめ、地域の企業、商工会、関係機関などの代表等、外部委員による学校運営協議会を構成し、企画運営への助言を計画している。

一方、地域人材を活用した校外推進体制としては、「室戸市まち・ひと・しごと創生推進事業」に基づき、地域課題の解決等に向けた取組と海外交流による効果的な人材育成に向けた取組の検討を進めるため、学識経験者を含むコンソーシアムを構築した。（別添資料参考）

①　構成団体及び研究開発体制

団体名等	主な役割
高知県教育委員会	・全体総括
高知県立室戸高等学校	・研究開発総括
室戸ジオパーク推進協議会 （ESD 活動拠点センター）	・国内外のジオパーク地域、学校との連携体制の構築 ・室戸高校におけるジオパーク関連活動の補助
室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会	・高校生による地域実践活動のための指導、助言
室戸高校魅力化の会	・高校生による地域実践活動のための指導、助言
室戸市ＳＤＧｓ推進本部	・本校の総合的な学習(探究)の時間への講師派遣

②　活動内容

活動日程	活動内容
令和３年６月 16 日	第１回会合 ・学校からの地域貢献活動、海外交流活動、室戸地域協働学習の実施状況の報告と内容確認
令和４年２月４日	第２回会合 ・本校主催「ユネスコ世界ジオパーク高校生国際交流会」への来賓・講評としての参加生徒の学習活動視察

（４）運営指導委員会

①　構成団体及び研究開発体制

氏名	所属・職	備考
岩井　雅夫	高知大学海洋コア総合研究センター・教授	学識経験者
杉尾　智子	高知県青年国際交流機構（高知県 IYEO）・副会長	関係行政機関職員
近森　憲助	高知学園大学・学長	学識経験者
中村　昭史	室戸ジオパーク推進協議会・地理専門員	学識経験者
別府　誠	高知県観光振興部地域観光課・課長	関係行政機関職員

②　活動内容

活動日程	活動内容
令和３年９月６日	第１回会合 ・地域協働による高等学校改革推進事業の取組について説明 ・産業社会と人間等、事業とかかわる科目の年間指導計画の確認 ・新型コロナウイルス感染症による計画の変更について ・事業成果のまとめ方について協議し、方針を決定
令和４年２月 17 日	第２回会合 ・３年間の総括と次年度以降の自走のための計画についての協議 ・課題研究等カリキュラム開発における課題ついての協議 ・地域課題解決学習、海外交流等成果報告方法についての協議 ・学校の魅力アップについての協議

（５）海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員

① 構成

分類	氏名	所属・職	雇用形態
海外交流アドバイザー	小笠原　翼	室戸ジオパーク推進協議会・国際交流専門員	依頼回数に応じて謝金支払い・室戸高校で勤務
地域協働学習支援員			

② 活動内容

・海外交流アドバイザー

国内外のジオパーク関連機関との連携交渉及び生徒の交流の中心的な役割を担った。姉妹ジオパークであるランカウイユネスコ世界ジオパークとの合同イベントを企画運営した。その他、本校生徒・教員を対象とした韓国語講座を開催するなど、英語に限らない言語を知り、学ぶ機会を提供した。また国際交流に係る多様な機会に教員と連携することで、生徒の外国語運用能力と積極的にコミュニケーションをとろうとする態度の向上に貢献した。さらに、ジオパーク地域を訪問するスタディツアーの企画運営を行うことで生徒の体験的学習の機会を提供した。

・地域協働学習実施支援員

ステークホルダーとの調整役、生徒の地域探究活動の企画運営の中心を担った。また、生徒が発見した地域課題の解決等の学習においては的確なアドバイスを与えた。地域関係各所における生徒の発表の機会の提供、体験を通した探究活動の場を設けるなど、地域と高校を結ぶ活動を企画運営することで生徒の活動を活発化させた。また、発表の際には生徒に専門的な立場からの助言をいただいた。

（６）その他の主な支援団体

地域人材を活用した校外推進体制としては、「室戸市まち・ひと・しごと創生推進事業」に基づき、地域課題の解決等に向けた取組と海外交流による効果的な人材育成に向けた取組の検討を進めるため、学識経験者を含むコンソーシアムを構築している。

（７）研究開発の実績

授業内外の活動を問わず、生徒の探究活動については機会があるたびに呼びかけ、発表の機会を得てきた。中には入賞し、ウェブサイトへの掲載や代表としての発表の機会をいただくことで、室戸高校生の活動を広く知っていただく機会となった。また、探究活動における成果物（ポスターやスライド）は室戸世界ジオパークセンターに展示していただくことで、室戸高校生の地域貢献活動をＰＲしている。生徒から提案があったＳＮＳでの学校活動ＰＲについても、公式ＳＮＳを開き、日常における生徒の活動の様子を幅広く知ってもらえるように取り組んでいる。

令和３年度には地域協働学習実施支援員と本校教員が協働し、「防災教育を軸とした地域との連携～生徒と地域のレジリエンスを高める取組～」というテーマで日本教育公務員弘済会高知支部主催の教育実践研究論文に応募し、「学校部門」で入賞を果たした。また、地域協働学習実施支援員による「日本ジオパーク全国大会」や香川大学主催のシンポジウムでの取り組み発表など、室戸高校の取り組みについて広く普及する活動を行った。このように、本校の好事例を普及するため、様々な機会を利用している。海外へのＰＲについても、海外交流アドバイザーを中心にユネスコ世界ジオパークネットワークを活かした広報活動を行っている。ランカウイユネスコ世界ジオ―パークとの合同イベントをアジア太平洋ジオパークネットワークの広報誌に掲載していただいた。

学校として積極的なコンテストの参加により、生徒の取り組みが学校全体で共有できるようにした。定期的なコンテストへの参加は年間計画とあわせて進捗管理ができることと、発表や表彰・主催

側からの講評を外部評価として活用することで、全体にフィードバックし指導の見直し・改善を行ってきた。また、地域で唯一の高等学校であるため、学校は室戸市の各種協議団体へ代表委員として参加している。そのような協議会の場において室戸高等学校の生徒の取組みを紹介し、参加の委員の皆様からご意見やご示唆をいただき、評価をいただくようにした。

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研究開発	通年で取り組み											
地域課題研究	通年で取り組み											
カリキュラム開発	1回	1回	1回	3回		1回	1回				1回	2回
総合的な学習の時間	1回	2回				2回		1回	3回		2回	
海外交流アドバイザー	通年で取り組み											
地域協働学習実施支援員	通年で取り組み											
地域との連携	通年で取り組み											
地域貢献活動（ボランティア）				2回	2回	1回		1回				
コンソーシアム		1回	1回	1回			1回	1回	1回	1回	2回	
運営指導委員会						1回					1回	
国際交流	1回	7回		3回		1回	2回	2回		3回	1回	
国内交流								1回		2回	1回	
地域交流（保小中）		1回	1回	2回	2回	3回	1回	1回	1回		1回	

① 研究開発

ＥＳＤの視点で地域貢献につながる活動を体系化し、ジオパークを題材にした海外交流体験によるグローバルな視点を加えた、カリキュラム・マネジメントを開発する取り組みを進めることができた。そのことから本校がこれまで取り組んできたキャリア教育によって培われてきたキャリア形成の基礎的・汎用的能力の向上を推進することができた。

研究開発を行うにあたり、教科間連携と地域との連携を行うことで学びの効率化と深化を図った。その際には本年度より本格化した Google Workspace の導入が非常に役立った。Google Classroom をはじめ、生徒と教員、そして地域協働学習実施支援員はじめ生徒の活動の指導助言者との情報共有が容易にできるプラットフォームができたことから、効率的に情報共有をし、オンライン上でのコミュニケーションが可能になった。プラットフォームの構築や生徒の Google Workspace の活用においては教員が主導となり、生徒への指導を行った。現在は生徒、教員、指導

助言者の協働体制ができ、探究活動を進めることができている。
　また、ジオパーク推進協議会との連携協定が締結されたことでＥＳＤの知識が豊富な専門員によるアドバイスを受けることができ、生徒、教員ともにＳＤＧｓを意識した探究活動の推進が進んだ。

② 地域課題研究
　これまでも総合的な探究の時間をとおして生徒が地域の魅力を知り、課題を発見し、その解決策を考えるという活動を行ってきた。ステークホルダーとの連携を推進することで、生徒の課題意識をさらに掘り下げ、より実現可能な解決策を考えることができた。また、生徒の地域貢献活動への意識も高まっている。生徒による探究活動が深まりを見せてきたことから、今後も更なる地域との協働と、地域課題探究活動の活発化が期待できる。

③ カリキュラム開発及び実践
　カリキュラム・マネジメントにおいては、担当教員間で様々な試行錯誤を行うとともに、校内研修でジオパークを柱とした教科間連携についてのアイデアを出し合った。こういった活動をとおして教員間の教科間連携への意識づけができただけではなく、実現可能性の高いアイデアを元に実際に「ジオパーク学（商工業・芸術系列）」と「コミュニケーション技術（生活・福祉系列）」による、互いの特徴を活かした教科間連携を実施できた。この取り組みをモデルケースとし、今後も相乗的な学習効果の向上を目指した連携を推進していく。

ア．産業社会と人間（１年・２単位）・・・ライフプラン発表会
　地域の魅力を知り、地域で活躍する人材について知ることに加え、自分自身について知るキャリア学習を実施。生徒は「知る」「考える」「発表する」という過程を経て、知識に基づいて意見やアイデアを発表する経験を積んだ。

イ．続産業社会と人間（２年・１単位）・・・地方創生アイデア発表会
　地域課題について統計データを示しながら分析することから始め、自分自身のキャリアプランとも関連付けながら地域活性化のアイデアを考えて発表した。生徒は一年次の学びを活かし、統計データを盛り込んでアイデアを考え発表することを通し、表現の仕方の工夫を意識することができた。

ウ．課題研究（３年・２単位）・・・課題研究発表会
　各教科指導や課外活動などあらゆる教育活動における範囲で研究テーマを設定し、学校教育活動で得た知識や技術を活かして、自身のキャリアプランと関連付けながら地域貢献に関わる研究活動を行った。また、地域との協働による活動が研究テーマ設定の動機づけになるケースも多く見られるなど、様々な経験が活かされていた。

④ 成果と評価
「室戸ユネスコ世界ジオパーク地域唯一の高等学校として、その資源を有効に活用し、世界の様々な地域と関わることで、グローバルな視点で物事をとらえることができる資質を持つ人材を育てる。」「総合学科ならではの教育活動の特色を活かし、郷土理解の学習をとおして地域の文化・歴史・生活・産業に深い見識を持ち、将来、地域産業の発展に参画できる人材を育てる。」という二本の柱を掲げて三か年の取り組みを行ってきた。また、「すべての学校活動を地域貢献につなげる」ということを意識したカリキュラム開発を目指した。
　地域との連携が加速度的に進む中、ジオパーク関連活動にとどまらず、地域課題の発見と解決するためのアイデアを考え、発表するという過程全てにおいての協働体制が固まりつつある。室

戸市の取り組みに高校生が参画する機会も増え、協働することによるメリットを双方が認識できたことも大きな収穫であった。三年間を経て、「室戸高校では探究活動ができる」「自分たちのしたいことを実現できる学校」という声を生徒から聞くことも増えた。生徒が自分たちの探究活動を通して、地域に貢献できているという意識が高まっていることが一番の成果でもある。

カリキュラム開発においても、試行錯誤を経て結果としてジオパークを軸とした教科間連携によるプロジェクト型学習を始めるなど、一定の方向性を示すことができた。現時点でも「産業社会と人間（１年）」で１学期からＳＤＧｓについて学習するなど、ＥＳＤ教育の推進も進んでいる。

手探りの中始まった事業の方向性が定まりつつあった中で、新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の地域・学校への訪問、校外での活動など予定していたほとんどの活動を思うように行うことができず、軌道修正を余儀なくされた。しかし、結果として地域との協働体制を強固にするきっかけにもなった。また、変化に対応する教育の在り方について深く考える機会を得られたことは評価に値すると考える。

令和３年度にはそれぞれの科目の単元を８種類にカテゴリー分けをし、単元内容を端的に記入するための室戸高校版 ESD カレンダーを作成し、それぞれの科目における単元のつながりを知り、連携を進める下準備を行った。今後はこのカレンダーを活用し、更なる教科間連携を推進していく予定である。

【資料】室戸高校版 ESD カレンダー　※拡大版は「別添資料」に掲載

教科	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
コミ英I	単元	世界のことわざ	岩合光昭さんへのインタビュー	高校生が作ったサバ缶が宇宙食に	『クマのプーさん』に込められたメッセージ		消滅の危機にある世界言語	車いすで世界一周した三代達也さんのブログ	難民の子どもたちのためのサッカーチーム	分身ロボットで広がる未来	角野栄子さんとその想像力	SDGsに関するプレゼンテーション
	カテゴリ	文化	災害・自然	教育	教育		文化	教育	教育	社会	仕事	社会
			仕事					社会	文化		教育	資源・エネルギー
生物基礎	単元	生物の多様性と共通性	代謝（植物と動物の関係）	遺伝（ゲノムについて）	遺伝（バイオテクノロジー）		恒常性（生命維持のしくみ）	恒常性（ホルモンの役割）	免疫（健康を保つしくみ）	免疫（感染症と人類の歩み）	生態系（多様性）	生態系（環境問題）
	カテゴリ	災害・自然	災害・自然	災害・自然	仕事		健康	健康	健康	健康	災害・自然	災害・自然
				社会	社会					災害・自然	資源・エネルギー	資源・エネルギー
					経済					経済		
家庭基礎	単元	自分らしい生き方と家族	自分らしい生き方と家族／子どもとかかわる	子どもとかかわる／高齢者とかかわる	高齢者とかかわる／社会とかかわる		食生活とかかわる	食生活とかかわる	衣生活をつくる	衣生活をつくる	住生活を作る	消費行動を考える
	カテゴリ	仕事	仕事	仕事	仕事		文化	健康	文化	資源・エネルギー	文化	経済
		健康	健康	教育	健康		健康	資源・エネルギー	健康		災害・自然	資源・エネルギー
			社会	社会	社会						資源・エネルギー	
現代社会	単元	民主政治の成立	日本国憲法 基本的人権・平和主義	日本の政治機構と政治参加			市場の仕組み	経済成長 金融	財政・租税 戦後の日本経済史	消費者問題・公害 労働者問題・社会保障	国際社会と国際平和	国際経済
	カテゴリ	社会	社会	社会			社会	社会	社会	社会	社会	社会
		文化	文化	文化			仕事	仕事	文化	文化	文化	文化
			仕事				経済	経済	資源・エネルギー	資源・エネルギー	資源・エネルギー	経済
			教育						経済	健康		
									災害・自然	経済		
保健体育	単元	健康の現状	健康の考え方	生活習慣病と日常の生活	喫煙・飲酒と健康		薬物と健康／感染症	性感染症とエイズ	欲求とストレス	心の健康	交通安全	応急手当／心肺蘇生法
	カテゴリ	健康	健康	健康	健康		健康	健康	健康	健康	社会	健康
		教育	社会	経済	教育		教育	社会	社会	社会	資源・エネルギー	災害・自然
			文化	仕事			社会			仕事		
数学IA	単元	式の計算 実数	1次不等式	2次関数			三角比	三角比 場合の数	場合の数 確率		集合と論証	データ 図形の性質
	具体例											
	カテゴリ	経済	社会	社会			社会	社会	社会		仕事	社会
		仕事	仕事	経済			経済	経済	経済		教育	災害・自然
			経済	資源・エネルギー								経済
												健康

※ESD カレンダー作成における一つの課題がカテゴリー分けである。本校では当初 SDGs の 17 項目を想定していたが、カテゴリーが増えるほど記入が難しくなることと、共通項を見つけにくくなることから、オリジナルで８つの分野に分けた。そうすることで、単元と８つの分類に当てはまるものを記入するだけで学習内容の全体を見ることができる表に仕上がった。

経済	**教育**	**社会**	**災害・自然**
文化	**健康**	**仕事**	**資源・エネルギー**

（８）ユネスコ世界ジオパーク高校生国際交流会

本指定事業申請当時より計画していた「ユネスコ世界ジオパーク高校生国際交流会」を令和４年２月４日（金）にオンラインにて開催した。当初は「国内外のジオパーク地域の高校生が一堂に会し

て交流会をする」という計画だったが、対面から、ハイブリッド、オンラインへと変更を重ね、最終的に規模を大幅に縮小して開催することとなった。当日は９校 31 名が参加し、県内外の高校生と「防災・減災」、「保全活動」、「地域との連携」をテーマに意見交換を行った。本校からは「室戸市の防災・減災の取り組み」と「ジオパークツアーにおけるＵＤ～食べて触って聞くジオパーク～」を発表した。視聴したジオパーク関係者からは「室戸高校生だけではなく、参加した高校生の熱い思いが感じられた」とのコメントもいただいた。

本校参加生徒の振り返りシートより

私はジオパーク×福祉のジオパークガイドツアーについて発表しました。発表では通信が安定せず、他の人々にしっかりと届いているかとても不安でしたが、大きなミスなく終えることができました。講評では、高知大学の赤池慎吾准教授からたくさんのアドバイスをいただきました。「感覚を大切にしたジオツアーをより発展させるために、五感を使ったガイドを見てみたい」と言ってくださり、新しいガイド案のイメージを膨らませることができました。今回の国際交流会で、自分たちの発表内容の良さや問題点について気づくことができ、他校の発表から室戸の魅力についてもう一度考えることができたので良かったです。	今回の国際交流会で、私たちのグループは防災・減災の発表、意見交換をしました。他校の、四国にはない活火山についての防災・減災の発表を聞いて、新しい知識を得ることができました。また、どの発表にも共通していると感じたのは『地域と共に作る防災』だということです。北海道の伊達緑丘高校は、前回の噴火時に「噴火の前には、下から突き上げるような地震がくる」と伝えられていたことにより、事前に全員が避難し、誰一人ケガもしなかったそうです。このように、地域との連携、そして、過去に起こった災害の詳細などを伝えていくことが大切だと感じました。これから私たちも地域の人たちに、自分たちが調べたこと、感じたことを伝えられればと思います。

主 催：高知県立室戸高等学校　共 催：室戸市、室戸市教育委員会、室戸ジオパーク推進協議会

ユネスコ世界ジオパーク 高校生国際交流会

～持続可能な地域社会の実現のために高校生ができること～

令和4年
2月4日(金)
9:30-16:00
オンライン開催

室戸高校は文部科学省による指定事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」指定校としてジオパークを柱としたさまざまな活動に取り組んでまいりました。指定校事業の最終年度を迎え、「国内外のジオパーク関連地域の高校生が研究や実践を共有し、意見交換することによって地域理解と郷土への愛着を深め、地域課題の解決策を考える機会とする」ことを目標に本交流会を開催いたします。

分科会①防災・減災

地域の自然環境や気候条件に即した防災・減災への取り組みについて

分科会②保全活動

地域の自然環境を取り巻く状況と課題の発見、解決策の提案について

分科会③地域との連携

持続可能社会の実現のために地域と協働して行っていることについて

発表校	分科会①	火山の災害と恵みを知る学び	伊達緑丘高等学校（北海道）
		活火山の新潟焼山を知る！楽しむ！備える！プロジェクト	糸魚川白嶺高等学校（新潟県）
		室戸市の防災・減災の取り組み	室戸高等学校（高知県）
	分科会②	トサシミズサンショウウオを守っていこう！	清水高等学校（高知県）
		ゴミが環境に与える影響	新宮高等学校（和歌山県）
		霧島温泉の保全・発展	国分高等学校（鹿児島県）
		ガンガゼの駆除について	隠岐高等学校（島根県）
	分科会③	霧島ジオパークと観光振興	霧島高等学校（鹿児島県）
		ジオパークツアーにおけるUD～食べて触って聞くジオパーク～	室戸高等学校（高知県）
		中学生へむけたオンラインジオツアーをとおして見えてきたこと	池田高等学校（徳島県）

海外参加地域	ボヘミアンパラダイスユネスコ世界ジオパーク（チェコ共和国）、ランカウイユネスコ世界ジオパーク（マレーシア）、香港ユネスコ世界ジオパーク（香港）※予定

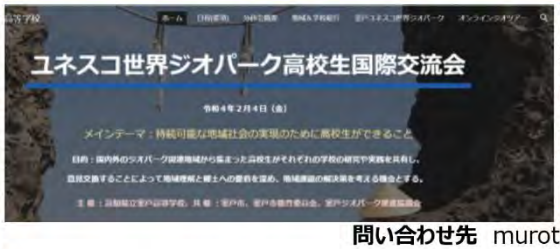
【プログラム】

開会式
- 参加校による地域・学校紹介
- 室戸高校取組発表
- 室戸ユネスコ世界ジオパーク紹介

分科会
- 各分科会の代表校による取組紹介
- 参加校による取組紹介
- 質疑応答、協議、情報共有会　など

閉会式

交流会のオンライン視聴など、詳細については公式サイトをご覧ください
https://sites.google.com/view/muroto-h-geo



問い合わせ先　muroto.h.geo@gmail.com

ユネスコ世界ジオパーク高校生国際交流会オンライン(Zoom)版開催要項

メインテーマ：持続可能な地域社会の実現のために高校生ができること

1 目 的 国内外のジオパーク関連地域の高校生がそれぞれの学校の研究や実践を共有し、意見交換することによって地域理解と郷土への愛着を深め、地域課題の解決策を考える機会とする。

2 日 時 令和４年２月４日（金）　９：３０~１６：００（予定）

3 主 催 高知県立室戸高等学校 （〒781-7102　室戸市室津 221 番地 ）

4 共 催 室戸市、室戸市教育委員会、室戸ジオパーク推進協議会

5 日 程

（1）開会式（９：３０~１０：００）

- 開会宣言
- 参加校による地域・学校紹介（各校１分・スライドや動画等使用せずに行います）
- 運営校による発表（内容未定）
- 室戸ユネスコ世界ジオパークについての紹介

（2）分科会※前半と後半のグループ替えはありません。

前半（１０：３０～１２：００）

① アイスブレイキング（ブレイクアウトルーム利用）
② 各分科会の代表校によるプレゼンテーション（１０分程度）
③ ②のプレゼンテーションに関する質疑応答、ディスカッション

後半（１３：００～１４：００）

④ 代表校以外の参加校によるプレゼンテーション（７分程度）
⑤ ④のプレゼンテーションに関する質疑応答、ディスカッション
⑥ 話し合いの内容を受けて、今後の取り組みへのアイデアを取りまとめる

（3）情報共有会（１４：４０~１５：２０）

ブレイクアウトルームに分かれ、他の分科会参加者と各分科会で話し合った内容を共有する
（ジグソー法のようなイメージ）

（4）閉会式（１５：３０~１６：００）※予定

- 講評
- 閉会宣言

6 申込/データ提出期日

・参加登録生徒は各校４名までとします。聴講については人数制限はありません。
・大会ウェブサイト上の申込フォームに必要事項をご記入の上、送信してください。

① 10 月 13 日（水）参加申し込み（分科会選択、テーマ、タイトル）締切
② 11 月 17 日（水）発表要旨締切
　11 月下旬：代表発表の打診（発表要旨を見て、個別に連絡を差し上げます）
③ 令和４年１月 14 日（金）発表用スライドデータ（様式自由)締切

7 プレゼンテーションについて

・使用言語は英語、日本語いずれでも構いません。ただし、日本語でプレゼンをする場合は英語の字幕を付けるか英訳原稿を配布するなど、いずれの言語話者にも対応できるように準備をお願いします。質疑応答については音声翻訳ソフトを活用したり、通訳できる方にも参加していただくなど、できるだけ言語が意見交換において問題にならないように主催者側で対応したいと考えております。
・時間制限・・・代表校：１０分程度、その他の学校：７分程度
・容量の大きい動画の貼り付けやアニメーションの多用を避けることをおすすめします。

8 分科会のテーマと概要

1	**防災・減災**	**地域の自然環境や気候条件に即した防災・減災への取り組みについて**
	それぞれの地域の地質的地形的特徴を理解し、それと密接に関係している自然環境や気候条件の変化、自然災害に対して、防災・減災のために高校生が実際に取り組んでいること、その中での気付きや発見した課題について発表する。 地域によって異なる視点から活発に意見を交わし、今後の取り組みに活かせるようなアイデアを得ることを目標とする。	
2	**保全活動**	**地域の自然環境を取り巻く状況と課題の発見、解決策の提案について**
	ジオパークエリアにおける豊かな地質・自然・文化遺産を保全し、未来へとつなげるための活動の紹介や、地域の資源を活かした地域創生活動、その中での気付きや発見した課題について発表する。 それぞれの地域における地質・自然・文化遺産の魅力を発信したり課題を共有することで、今後の発展的な取り組みへとつなげることを目標とする。	
3	**地域との連携**	**持続可能社会の実現のために地域と協働して行っていることについて**
	本大会のテーマでもある「持続可能な地域社会」の実現には、私たちが住む地域を多角的に見つめる広い視野と、地域との協働が不可欠である。本分科会では、ジオパークネットワークを活用し、地域と連携した高校生の特色ある取り組みを共有する。 「私たちの地域が 100 年先も続くように」という理想を掲げ、活動の過程で発見した地域の魅力や課題の紹介にとどまらず、今後の活動の参考となる好事例の共有の場としたい。 ※この分科会においては、高校と地域の橋渡し的な役割を担っている外部組織の方々の視点を取り入れてください。また、発表はジオパーク理念を意識した内容であることが望ましいです。	

9 その他

・事前に 1 時間程度のリハーサルを実施する予定です。（時期はメールにて連絡します）

・代表校に決定した高校に関しては、引率者あるいはジオパーク関係者に分科会のファシリテーション（司会進行）を依頼することもありますので、その場合はご協力をお願いします。

・今後、スケジュールや内容に変更が生じる場合があります。今後、アナウンスや情報提供は大会ウェブサイトやメールで行います。メールでの情報提供を希望する場合はウェブサイトよりメーリングリストへの登録をお願いいたします。

（日本語） https://sites.google.com/view/muroto-h-geo

（英　語） https://sites.google.com/g.kochinet.ed.jp/muroto-h-geo-english

GeoHS Symp in Muroto

10 問い合わせ先

※問い合わせにはウェブサイトの問い合わせフォームをご利用ください。

高知県立室戸高等学校「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」

研究主任 大和田

E-Mail：muroto.h.geo@gmail.com

ＴＥＬ ：0887－22－1155

September 1, 2021

The International High School Students' Symposium on UNESCO Global Geoparks (ONLINE)

Theme: What high school students can do to realize a sustainable local community

1. Objective

To provide an opportunity for high school students from Geopark areas (including aspiring Geopark) in Japan and overseas to deepen their understanding of the region and enhance pride in their hometowns by sharing their research and school activities and exchanging opinions, and to consider solutions to the problems facing the region.

2. Date and Time

Friday, February 4, 2022, 9:30 am - 4:00 pm (tentative) on Zoom

3. Organizer

Muroto High School, Kochi Japan (221 Murotsu, Muroto-shi, 781-7102)

4. Co-organizers

Muroto City, Muroto City Board of Education, Muroto Geopark Promotion Committee

5. Schedule (Subject to change)

(1) Opening Ceremony (9:30-10:00 am)

- Opening remarks.
- Introduction of the community and schools by the participating schools (1 minute for each school, without using slides or videos)
- Presentation by the organizing school (content to be determined)
- Introduction of the Muroto UNESCO Global Geopark

(2) Breakout sessions *There will be no change of groups between the first and second halves.

- First half (10:30 am - 12:00 pm)
  - ① Ice-breaking (using the breakout room)
  - ② Presentations by representative schools of each section meeting (about 10 minutes)
  - ③ Question and answer session and discussion on ②.
- Second half (1:00 - 2:00 pm)
  - ④ Presentations by schools other than the representative school (about 7 minutes)
  - ⑤ Question and answer session and discussion on ④.
  - ⑥ Compilation of ideas for future activities based on the discussion

(3) Information sharing session (2:40 - 3:20 pm)

Participants will be divided into breakout rooms to share what was discussed in each breakout session with other breakout session participants. (Similar to the jigsaw method)

(4) Closing ceremony (3:30 - 4:00 pm) *tentative

- Critique
- Closing remarks.

6. Application/Data Submission Date

- The number of registered students is limited to 4 per school. There is no limit to the number of auditors.
- Please fill out and submit the application form on the conference website.
  - ① Oct.13 (Wed.) Registration due (choice of session, theme, title)
  - ② Nov.17 (Wed.) Abstract due
  - ③ Late November: Contact for representative presentations (we will contact you individually after reviewing your presentation abstract)
  - ④ Jan. 14 (Fri.), 2022: Presentation slide data due (any format)

7. Presentations

Both English and Japanese are acceptable. However, if you give your presentation in Japanese, please make preparations to accommodate speakers of either language by providing English subtitles or distributing an English translation of your presentation. For the question and answer session, the organizers will try to make sure that language is not a problem in the exchange of opinions by using audio translation software or having someone who can interpret the presentations.

- Time limitation: Representative school (10 minutes), other schools (7 minutes)
  (It is recommended to avoid using large video clips and animations.)

8. Sectional Meeting Themes

(1) Geohazard Risk Reduction and Management

Understanding the geological and geomorphological features of each region, and the changes in the natural environment and climatic conditions that are closely related to these features. In this session, high school students will present what they are actually doing to prevent and mitigate disasters, and what they have noticed and discovered in their efforts.

The goal is to have a lively discussion from different perspectives in different regions and to obtain ideas that can be utilized in future efforts.

(2) Environmental Conservation

Participants will present their activities to conserve the rich geological, natural, and cultural heritage of the Geopark area for the future, as well as their activities to create a community using local resources, and the issues they have noticed and discovered through these activities.

The goal is to disseminate the appeal of the geological, natural, and cultural heritage of each region and to share issues, which will lead to future developmental efforts.

(3) Local Community Engagement

In order to realize a sustainable regional society, which is the theme of this conference, it is essential to have a broad perspectives on the region and to collaborate with the local community. In this session, we will share the unique efforts of high school students who are utilizing the Geopark network and collaborating with local communities.

With the ideal of "making sure that our region will last for 100 years to come," this session will not only introduce the attractions and challenges of the region that were discovered in the course of the activities, but also provide a place to share good practices that can be used as reference for future activities.

In this subcommittee, please include the perspectives of outside organizations that serve as bridges between high schools and the community. In addition, it is desirable that presentations be made with the Geopark principles in mind.

9. Miscellaneous

- A rehearsal of about one hour will be held in advance. (The timing will be announced by e-mail.)
- For the high school selected as the representative school, we may ask the leader or someone from the Geopark to facilitate The sectional maaetings (the breakout sessions), in which case we would appreciate your cooperation.
- The schedule and contents may be subject to change in the future. In such cases, announcements will be made on the conference website and via e-mail. If you wish to receive information by e-mail, please register for the mailing list from the website.

(Japanese) https://sites.google.com/view/muroto-h-geo
(English) https://sites.google.com/g.kochinet.ed.jp/muroto-h-geo-english

10. Contact - For inquiries, please use the inquiry form on the website.

"Project for Promotion of High School Education Reform in Collaboration with the Local Community"

Muroto High School, Kochi Japan
E-Mail: muroto.h.geo@gmail.com

Ⅱ．グローカル人材育成のための実践

（１）特色ある科目の実施

①　産業社会と人間

１．概略

対象（単位数）：１年（２単位）

総括：教務部「産業社会と人間・総合的な探究の時間」担当教員

担当：ホーム主任、１年団「産業社会と人間」担当教員

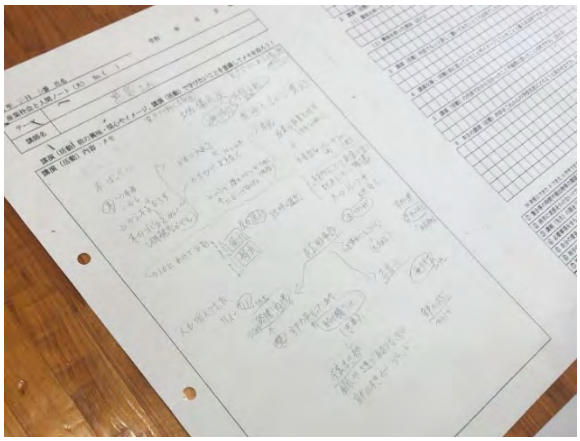
地域からの支援員：室戸ジオパーク推進協議会専門員、地域産業に携わる社会人等

目的：自己を理解することから始まり、下記のような学習内容を通して、将来の職業選択に役立つように自分の学習計画（科目選択）を作る。

・自己理解のための諸検査　・職業人の講話　・職業・産業に関する基本的理解

・上級学校の見学や職場訪問・活動のまとめとライフプラン作成・発表

・地域や国際社会に関する基本的理解　　・科目選択



２．目標

自己啓発的な体験学習や討論などを通して、職業の選択決定に必要な能力・態度、将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力を養うとともに自己の充実や生きがいを目指し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度の育成を図る。また、現実の産業社会やその中での自己の在り方、生き方について認識させ、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度の育成を図る。

３．年間指導計画

１学期	「知る」 室戸の魅力やジオパークについて意見を出し合う。	観光施設だけではなく、人口や学校など、生活環境も含めて、室戸について知っていることを出し合う。あるもの／ないもの／分からないものを洗い出し、客観的に室戸を認識する。
２学期	「体感する」「考える」 ジオパーク資源の活用法について考える。	体験を踏まえて感じたジオパークの魅力とは何か。その魅力を今、室戸市や市民はどのように発信しているか。自分ならどうするか。
３学期	「考える」 自分の将来と室戸との関わりについて考える。 →「続・産業社会と人間」職場体験。自分にできることは何かを考える。 →ジオ学　室戸ジオを活用したいことを形に。	１学期、２学期の学習を踏まえて、人や場所など室戸の魅力・資源は何か。どうやってそれらの資源を活用し、室戸を活性化していけばよいか。

回	実施日		曜日	学習内容	時間
1	4	13	火	ブロックゲーム（仲間づくり）	2
2	4	20	火	「産業社会と人間」についてのオリエンテーション	2
3	4	27	火	室戸学①（ジオパーク）	2
4	5	11	火	室戸学②（調べ学習）	2
5	5	18	火	室戸学③（地域産業：炭玄）	2
6	5	25	火	科目選択説明および系列説明会	2
7	6	8	火	科目選択の実施（個人面談）①	2
8	6	15	火	科目選択の実施（個人面談）②・各教科ガイダンス	2
9	6	22	火	科目選択の実施（清書・個人面談）③	2
10	6	29	火	SDGs 理解①（すごろく・調べ学習①）	2
11	7	13	火	SDGs 理解②（調べ学習①・模造紙作成）	2
	7	19～21	月～水	三者面談（保護者）	3 日間
12	9	7	火	室戸学④（室戸岬周辺ガイドツアー）	2
13	9	14	火	室戸学⑤（ツアー振り返り）	2
14	9	21	火	まとめ模造紙作成（室戸学④・⑤）	2
15	10	5	火	5 限:高知工科大学訪問教育（ブルーバード） 6 限:講演振り返り/模造紙作成②	2
16	10	12	火	ライフプラン作成①（プリント作業:自己分析）	2
17	10	26	火	ライフプラン作成②（原稿作成）	2
18	11	2	火	ライフプラン作成③（原稿作成）	2
19	11	9	火	ライフプラン作成④（原稿作成）	2
20	11	16	火	スピーチアウトラインの作成／発表練習	2
21	11	30	火	ライフプラン学年発表会（１年次生全体）	2
22	12	21	火	室戸学⑥（清掃ボランティア活動） 【雨天時：職業を知るビデオ学習】	2
23	1	11	火	まとめスライド作成（清掃ボランティア）	2
24	1	18	火	まとめスライド作成（清掃ボランティア）・発表	2
25	1	25	火	ライフプランパソコン入力	2
26	2	1	火	進路学習	2
27	2	8	火	室戸学⑦（地域産業：ジオカフェ・ジオショップ）	2
28	2	15	火	室戸学⑧（室戸学のまとめ）	2
29	3	22	火	むろと脱炭素・未来ワークショップ	2
				年間のまとめ（続産について）、産社アンケート、ライフプラン冊子作成	

４．評価規準

評価規準	関心・意欲・態度	自ら室戸の魅力・課題について知ろうとしている。
	思考・判断・表現	地域の活性化について、複数の意見を参考にして自分の意見をまとめて、わかりやすく伝えることができる。
	技能	他人に分かりやすく自分の意見を表現できる。
	知識・技能	各テーマの基本的な知識を身に付けている。

５．本年度の改善点

本年度より「産業社会と人間」および「総合的な探究の時間」を総合学科運営部に代わり教務部が担当することになった。さらに、１年団からも「産業社会と人間」担当を設け、ホーム主任と協力して計画立案、準備、指導にあたった。新型コロナウイルスの影響で室戸市外での進路学習（学校・企業訪問など）ができなかった。来年度は感染状況を注視しつつ、可能な限り実施したいと考えている。

室戸学⑤の感想（抜粋）

<table>
<tr><td colspan="2">実施日
９月 14 日（火） ５・６限</td><td>外部講師
室戸ジオパーク推進協議会　専門員</td><td>時間数
２</td></tr>
<tr><td>学習内容</td><td colspan="3">室戸学⑤
室戸の魅力について考える</td></tr>
<tr><td>めあて</td><td colspan="3">９月７日の室戸学④の授業内容を振り返り、見学した観光地の良さや課題について整理し、グループ活動によって内容の理解を深める。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【生徒のレポートより抜粋】
室戸には 15 年間しっかり住んでいるし、これまでの授業の中でそこそこのことは知っているつもりだったけど全然だったなあと思いました。「室戸は暖かくて雨ばかり降っている」という情報だけでなく、「暖かいのは黒潮があるから」「よく雨が降るのは、室戸が海に面しており、山に囲まれているから」というふうに考えをつなげることでこれまでとは違った学びになりました。</td></tr>
</table>

６．成果と課題

＜成果＞

「産業社会と人間」の体験学習やグループワークを通して生徒たちは地域理解や自己理解を行うことができた。室戸学の授業後のレポートには「知っているようで知らなかった室戸の魅力に気づいた」、「今まで感じたことはなかったが、室戸は位置的、環境的に見ても恵まれていると感じた」など、これまで当たり前に感じていた身近な事柄に目を向け、価値を見出した記述が多くあった。

さらに、室戸学の授業を重ねていくなかで「室戸の特産物はどんなものかだけでなく、なぜ室戸の特産物になっているのか、学んだことと絡めながら考えていきたい」、「ジオパークの魅力を人により詳しく伝えられるようになりたい。自分は特に室戸の地層について詳しく学びたい」などの積極的な意見が出るようになり、生徒の地域に対する興味・関心の高まりが感じられるようになった。

こうした地域の魅力や課題について他者と協働して解決策を考えたり、意見を出し合ったりする活動を通して、生徒は「自分にできることは何か」、「将来室戸とどのように関わるか」といった自らの将来や自己のあり方を認識するようになり、自己理解を深めることにつながったと考えられる。「産業社会と人間」の授業は、「続・産業社会と人間」、「課題研究」につながる探究学習であり、自分自身や生まれ育った環境について考える基礎をつくる時間である。今後の室戸を担う生徒にとって、非常に重要な取り組みであると感じた。

＜課題＞

昨年度・今年度と個人研究の形態で実施してきたが、一人で研究を進めることのできる生徒ばかりではないため、指導する生徒数に対して教員数が不足していると感じた教員も多かった。一方で、グループ研究にしてはどうかという意見に対しては、研究を人任せにしてしまう生徒がでてくることを懸念する声もあがっており、今後の活動形態については検討が必要となっている。

どのような形態においても、「生徒が自分で研究を進め、深めていくことができる」ことが理想であり、教員は３年間を通して、その力を生徒が身に付けていけるよう指導していかなければならない。授業や特別活動など１年次からのさまざまな取り組みの積み重ねが、生徒たち自身で学びを発展させていく力へとつながることを意識し、その力の育成に向けて、今後も学習内容の検討やルーブリック評価の作成など改善を重ねたい。

②　続・産業社会と人間

１．概略

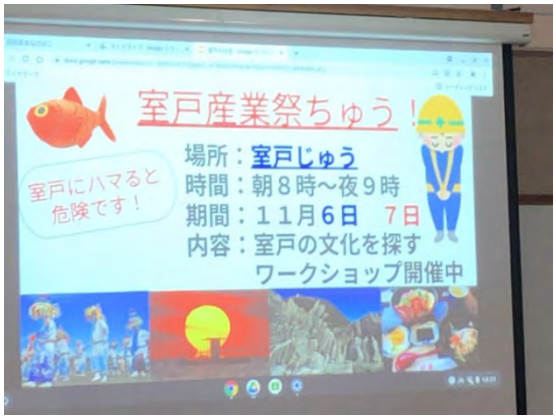
対象（単位数）：２年（１単位）

担当：ホーム主任、２年団「続・産業社会と人間」担当教員

２．目標

１年次で実施した「産業社会と人間」の学習内容を継続し、自己の進路選択の再検討を行い、自己の将来像についてさらに具体化し、計画性のある生活をおくることができる態度・姿勢の育成を図る。また、３年次の「課題研究」に向けての主体的な学習態度の育成を図るとともに学び方やものの考え方を身につける。

自己啓発的な体験学習や討論などを通して、職業の選択決定に必要な能力・態度、将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力を養うとともに、自己の充実や生きがいを目指し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度の育成を図る。また、現実の産業社会やその中での自己の在り方、生き方について認識させ、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度の育成を図る。



３．年間指導計画

１学期	地域課題の発見、解決策を考え発表する。
２学期	１学期の内容とデータ分析を踏まえて具体的方策を考え発表する。
３学期	課題研究テーマ決定

回数	実施日		曜日	学習内容	時間
1	4	8	木	オリエンテーション	1
2	4	15	木	「進路の手引き」を使用	1
3	4	22	木	求人票や募集要項等の見方について説明	1
4	5	6	木	室戸活性化計画①	1
5	5	13	木	室戸活性化計画②	1
6	5	20	木	室戸活性化計画③	1
7	5	27	木	室戸活性化計画④	1
8	6	10	木	発表原稿作成	1
9	6	17	木	発表原稿作成、発表練習	1
10	6	24	木	個人で発表	1
11	7	8	木	１学期間の学習成果の振り返り	1
12	7	15	木	夏期休業中にすること、２学期以降にするべきことの確認	1
13	9	2	木	Google Classroomについて	1
14	9	9	木	外部講師招聘：統計（RESAS）の活用について	1
15	9	16	木	原稿案の作成・改善	1
16	9	30	木	〃	1
17	10	7	木	外部講師招聘：室戸市の多文化共生について	1
18	10	14	木	〃	1
19	11	4	木	〃	1
20	11	11	木	校内プレゼンテーション	1
21	11	18	木	〃	1
22	11	25	木	〃	1
23	12	2	木	※冬期休暇中「振り返りシート」	1
24	12	16	木	課題研究について説明	1
25	1	13	木	テーマ内容用紙（表面）記入	1
26	1	20	木	テーマ内容用紙（表面）提出	1
27	2	10	木	各担当教員によるテーマ内容の指導	1
28	2	17	木	各担当教員指導のもと年間研究計画用紙（両面）完成	1
29	2	24	木	授業アンケート、感想文記入、年間研究計画用紙提出	1

４．評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①自分たちが住む地域が抱える課題を発見し、その背景を理解している。 ②データ分析の手段を理解し、分析システムの活用法を理解している。	①情報の分析を踏まえて発見した地域課題を自分事として捉え、解決方法（アイデア）を立案している。 ②「相手に伝える」ことを意識したスライド作成・発表ができている。	①計画性をもって活動に参加し、期限を守って学習を進めている。 ②他者の意見やアドバイスを参考にしながらよりよい発表をするという意識をもって学習を進めている。

月	9	9	9	9	10	10	11	11	11	11	12
日	2	9	16	30	7	14	4	11	18	25	2
内容	プレゼン概案	RESAS出前講座	スライド作成①	スライド作成②	スライド作成③	スライド作成④	スライド作成⑤	スライド作成⑥	校内プレゼン①	校内プレゼン②	校内プレゼン③
評価項目	提出状況	評価なし	RESAS	アイデア	実現可能性	取り組み	取り組み	取り組み	取り組み	取り組み	取り組み
	態①		知②	知① 思①	知① 思①	態②			思②		
（生徒氏名）	A B C		A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C
〃	A B C		A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C
〃	A B C		A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C
〃	A B C		A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C
〃	A B C		A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C
〃	A B C		A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C
〃	A B C		A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C
〃	A B C		A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C

「室戸市活性化アイデアコンテスト」校内プレゼン　ルーブリック

評価項目		５ポイント	３ポイント	１ポイント	点数
①	RESAS （データの活用）	効果的に活用できている	工夫の余地がある	アイデアとの関連が薄い	
②	RESAS （課題発見力）	データに基づいた課題発見ができている	工夫の余地がある	課題とデータの関連が薄い	
③	アイデア （独自性）	非常にユニークなアイデアである	ある程度のユニークさを感じる	あまり新しいアイデアではない	
④	アイデア （地域性）	室戸市の地域性が活かされている	室戸市の地域性がある程度活かされている	室戸市の地域性が活かされていない	
⑤	アイデア （実現可能性）	データや聞き取りに裏付けられた実現可能性が示されている。	実現可能性は感じられるが、根拠に乏しい	実現可能性が難しいことが明らかである	
⑥	発表態度	聞き手を意識して伝わるように発表できている	ある程度は聞き手を意識して伝わるように発表できている	聞き手を意識していると感じられない態度である	
				合計ポイント	

合計ポイント　　／３０（　Ａ　Ｂ　Ｃ　）

※合計ポイント：A：25-30、B：16-24、C：0-15

５．振り返りシート

時	月　　日（　　曜日）　　時間目	場所	
活動内容			
目標			
評価基準	A：目標を十分達成できた(90%以上達成) B：ある程度達成できた　(60%以上達成) C：達成できなかった　　(60%未満達成)	自己評価 (いずれかに〇)	A　B　C
振り返り 今後の抱負			

検印	

６．本年度の改善点

昨年度までは職場体験学習など、キャリア教育を中心に進めてきたため、一年次の地域探究活動の内容を深める活動が不十分であることが反省として挙げられていたことから、３年間をとおして継続的な活動とするために、今年度は一年次の「産業社会と人間」で行ってきた活動を土台とし、地域課題の発見から、課題解決のために自分たちができることを考え、それを発表するという流れを作ることに留意しながら指導計画を練った。また、これまで行ってきた職場体験学習に代わって地域探究活動を行う際に、活動に合った評価の在り方についても模索した。

７．成果と課題

＜成果＞

一学期には一年次の地域理解を活かして地域活性化のアイデアを考え、発表し、二学期にはその内容を更に深めてプレゼンテーションを行うことで、一年次の室戸学での学びを二年次の内容に活かすことができたのは大きな収穫であった。年次を経ながら、内容を積み上げていくという意識が教員の中にも生まれ、来年度の課題研究へのつながりも意識しながら授業を進めることができた。他者に伝わるように工夫し、発表することで、表現力を磨くことができたと実感する声が生徒からも多く聞かれた。

＜課題＞

これまで例年行ってきた職場体験を実施できなかったこともあり、これまでの年間計画を大幅に変更しての学習となった。手探りの中進めてきたことから、主担当となるホーム主任と授業計画の担当者間の連携がうまくいかないこともあった。しかし、担当者の努力もあり、一年次の地域理解から二年次の探究活動へ、そして三年次の課題研究へと、生徒の学びにつながりができ、今回の反省事項を十分に活かすことで、来年度につなげることができると考えられる。今後は、担当者と生徒が明確に目的を共有し、目指すべきところを理解したうえで活動を進められるシステムづくりが必要であると考え、現在その骨子作成に取り組んでいるところである。

【資料】「高知家地方創生アイデアコンテスト２０２１」結果報告書に掲載

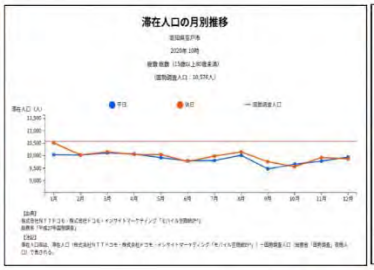
RESASの活用で探究学習に「根拠」を！

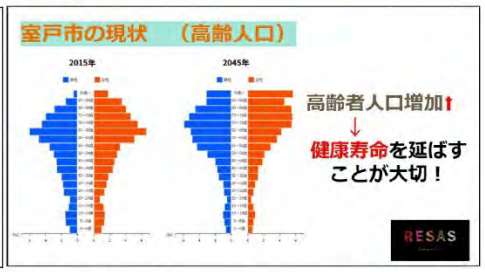
高知県立室戸高等学校（総合学科）の取り組み

ーデータを活用して地域課題を発見、その解決策を考えるー

室戸市はその全域がユネスコ世界ジオパークです。室戸高校は地域唯一の高校として１年次より地域の魅力について学び、課題を発見し、そして地域活性化について取り組んでいます。今回、2年次の総合的な学習の時間ではRESASを活用して発見した地域課題を解決するための地方創生アイデアプレゼンテーションを校内で実施しました。

↑２年次生全員がRESAS講座を受講し、データの活用方法を学びました。





↑それぞれが関心を持った分野のデータをRESASで見つけ、スライドに盛り込みました。

↑１年次の探究活動を元に、室戸市の地域課題と解決策を考えました。

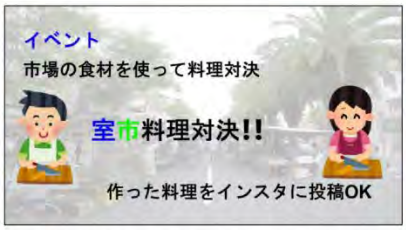
室戸市のイメージ

「少子高齢化」　「室戸には何もない」

RESASでデータ分析

・思っていた以上に人口減少が深刻
・滞在人口を調べてみると、まだ取り組みの余地がありそう

それぞれの気付きを元に、課題を解決するためのアイデアを考え、プレゼンテーション



↑自分たちが考える地域課題、解決するためのアイデア、実現プランをスライドにまとめました。発表では、市場を開く、地産地消のためのイベントを行う、サバイバルゲーム場を作るなどユニークなアイデアがたくさん出ました。

本校では、令和３年度の年間カリキュラム作成段階からRESAS講座を２年次の「続産業社会と人間（総合的な学習の時間）」に組み込んだことで、情報活用についての項目を評価基準に盛り込むことができました。また、RESASを活用することで、「データ分析の手段を理解し、根拠を示してから解決策を提案する」という探究活動の一つの柱ができました。何よりも、講座でデータの効果的な活用方法を学ぶことができたことは、生徒の情報活用能力の向上につながりました。１年次に室戸の魅力を知り、２年次に地域課題を発見し解決策を発表、３年次に個々の興味関心や進路希望に応じたテーマを設定して研究し、発表するという流れをこれからも継続したいと考えています。

③　課題研究

１．概略

対象（単位数）：３年次（２単位）

総括：課題研究担当教員（３年団）　　担当：３年団教員

２．目標

総合学科における学習の基礎の上に立った総合的･発展的な課題を生徒自らが設定し、個人またはグループによる継続的な学習を通して、自発的・創造的な学習態度や問題解決能力を養う。

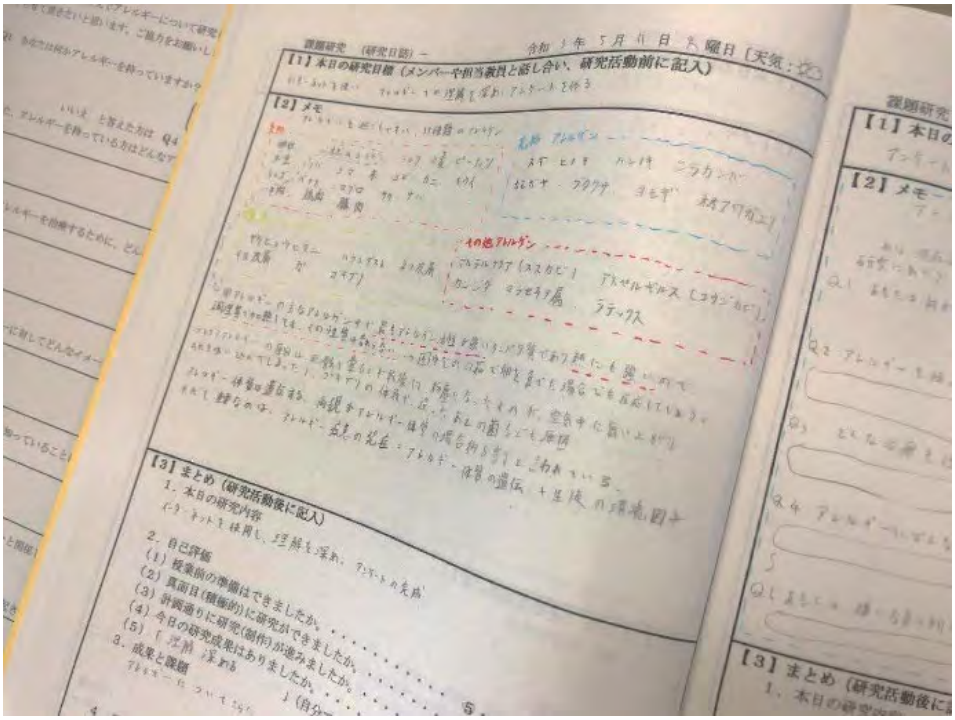
３．年間指導計画

回数	実施日		曜日	指導内容	時間
1	4	13	火	「課題研究」についての全体オリエンテーション	1
				担当教員別ガイダンス	1
2	4	20	火	授業	2
3	4	27	火	授業	2
4	5	11	火	授業	2
5	5	18	火	授業	2
6	5	25	火	授業	2
7	6	8	火	授業	2
8	6	15	火	授業	2
9	6	22	火	授業・中間報告書作成開始	2
10	6	29	火	授業・中間報告書入力①	2
11	7	13	火	授業・中間報告書入力②・提出	2
12	9	7	火	授業・中間報告書訂正・中間発表会準備	2
13	9	14	火	中間発表会〔最終発表会係アンケート〕	2
14	9	21	火	授業	2
15	10	5	火	高知工科大学連携教育事業（ブルーバード）訪問教育（プレゼンテーション術）	1
				授業	1
16	10	12	火	授業	2
17	10	26	火	授業	2
18	11	2	火	授業	2
19	11	9	火	授業・最終発表会資料作成①	2
20	11	16	火	授業・最終発表会資料作成②	2
21	11	30	火	最終発表会周知会	1
				授業・最終発表会資料提出（〆切厳守）	1
22	12	13	月	最終発表会リハーサル（１～６限）〔総合学科発表会係アンケート〕	6
	12	14	火	最終発表会（終日）	
23	12	21	火	授業・最終報告書作成	2
24	1	11	火	授業・最終報告書提出（〆切厳守）	2
25	1	18	火	第 21 回総合学科発表会周知会・係会	2
26	1	25	火	年間のまとめ	2

４．研究日誌（振り返りシート）

課題研究　（研究日誌）　　令和　　年　　月　　日　　曜日〔天気：　　〕

【１】本日の研究目標（メンバーや担当教員と話し合い、研究活動前に記入）
【２】メモ
【３】まとめ（研究活動後に記入） １．本日の研究内容 ２．自己評価 （１）授業前の準備はできましたか。・・・・・・・・・・・・　５・４・３・２・１ （２）真面目(積極的)に研究ができましたか。・・・・・・・・　５・４・３・２・１ （３）計画通りに研究(制作)が進みましたか。・・・・・・・・　５・４・３・２・１ （４）今日の研究成果はありましたか。・・・・・・・・・・・　５・４・３・２・１ （５）「　　」（自分で考えて書こう）・・　５・４・３・２・１ ３．成果と課題 ４．反省点（今日の研究に関する感想など）　／25点 ５．次回の計画
【４】教員からのコメント　　検印



５．課題研究の内容

今年度はどのような形でもよいので「地域に関わること」をミッションとして、生徒各自の興味・関心や進路希望に沿った研究を進めることとした。課題テーマ設定当初より室戸市に関係した活動を考える者もいたが、中には自分の希望する研究と、地域とのつながりを発見することに苦心した者もおり、そういった場合は生徒の希望を優先させた。そのなかで、地域振興にかかわるテーマを選択した生徒は、２９人中１１名であった。（以下抜粋）

課題研究のテーマ	研究概要
ねんどで室戸岬のジオパークはどれだけ再現できるか	室戸市の名所を、目で見ることができる方法で紹介したいと考え、粘土を使用した模型制作に取り組んだ。
室戸の特産品「サンゴ」を知ってもらう	室戸市の特産品であるサンゴの認知度を上げようと、２回にわたりサンゴ漁を体験するなど、自分なりの材料、手法でサンゴの魅力を伝えた。
地方創生に向けた室戸市の空き家活用法を提案する	室戸市の空き家問題に着目し、雇用創出など、他の課題と併せた課題解決案を提案するべく取り組んだ。
室戸高校をアニメーションでＰＲ	室戸高校の生徒数が減少しているという課題に着目し、アニメーションによる PR で室戸高校について知ってもらい、生徒数を増加させたいという目的を持って取り組んだ。
漁業の魅力を伝える	室戸市の中心産業である漁業の魅力を伝え、一人でも多くの人に漁業へ関心を持って欲しいという動機から、全国の漁業に関するイベントや活動を調べ、有効的な手段を検討した。。
室戸一周旅行のプラン作成	室戸在住者には室戸の良さを再認識してもらいたい、旅行が自由になった際には多くの人に室戸へ旅行に来て欲しいと考え、地元室戸の魅力的な旅行プランを計画した。
室戸のカルタを作る	室戸市の特産品や名所について、より多くの人に知ってもらいたいという思いから、自身の目指す進路に基づき、研究の対象を幼児に設定して研究・実践を行った。
室戸の産業について小学生に広める	自身の暮らす室戸を支える産業について、より低い年齢層から意識をしてほしいという思いから、小学校での学習内容をもとに、児童にとって身近な地域と関連させた教材を作成した。
高知の食文化を世界へ	世界的に注目される「ヴィーガン」に着目し、新たな地域活性化につながることを願い、室戸の食材や高知の郷土料理を使った「ヴィーガン皿鉢」を完成させた。
室戸の海岸から考える環境問題	室戸の海岸のゴミについて調査を行い、ゴミを減らす方法を検証し、どのように地域に貢献することができるかを考えた。
小学生への異文化理解教育	多文化共生社会の実現には子供たちへの異文化理解が重要だと考え、地域のインドネシア人漁業実習生や姉妹都市交流で出会ったオーストラリア人学生の協力を得て、小学生にどのような学びを提供できるか研究・実習を行った。

６．課題研究最終発表会

日　時：令和３年 12 月 14 日　８：55～15：25

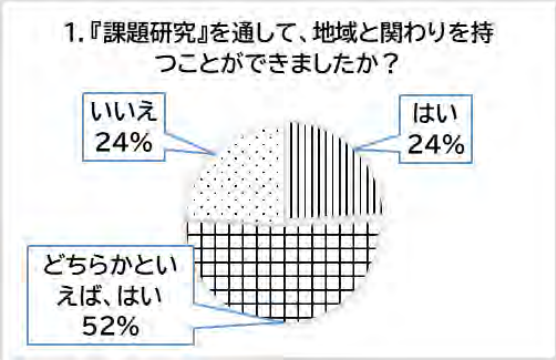
場　所：室戸高校　多目的ホール

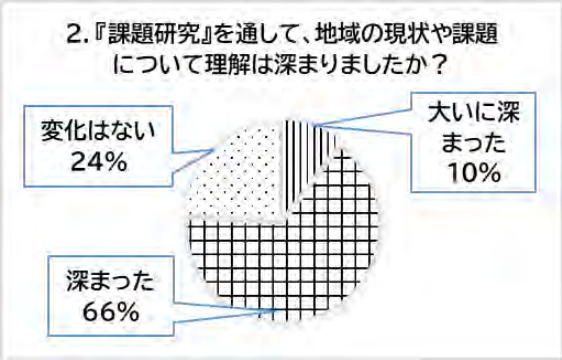
ねらい：課題研究で１年間研究した内容を発表することでまとめる力・発表する力を身につけ、総合学科の総まとめを行い、生徒の発表を聴くことで聴く力を身につける。

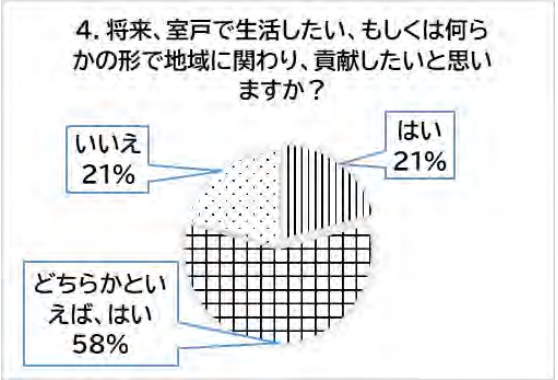
７．生徒の振り返りや感想・意見

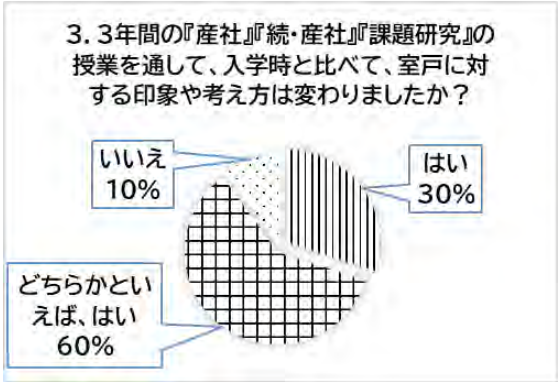
課題研究発表会終了後に、テーマ設定から発表までを通して、生徒が自身と地域とのつながりをどのように捉えていたかを知るためのアンケート調査を行った。

＜課題研究授業アンケートより（抜粋）＞









○アンケート４『将来、室戸で生活したい、もしくは何らかの形で地域に関わり、貢献したいと思いますか？』の回答理由記述欄より

【はい・どちらかといえば、はい】

・室戸には課題が残っているので、自分たちで解決しなければならないと思う。
・一度市外で働き、様々な知識や経験を身につけてから、将来室戸に還元していきたいと思っている。
・ボランティア活動などを通して自分にできることで貢献していきたい。
・室戸はまだ不便なこと（交通・買い物）が多いので、今は出たいと思っているけど、室戸は好きなので、機会があったら関わりたい。

【いいえ】

・学校に通っただけで、特に思い入れはないから。（市外の生徒）
・心では貢献したいと考えているが、できるかどうか、するかどうかと聞かれたらしないと思う。

○アンケート５『課題研究』を通して、身についたと思う力やこれからの生活に活かせると気づいた事柄を教えてください。

【計画性について】

・予定していた計画が、他の予定などが入り上手く進まなかったので、予定を作る際は駄目だった時のことを考えるようにしたい。
・アポ取りが遅かったうえ、相手側の都合もあって予定にさらに遅れが出たので、早めの行動を心がけたい。

【発表・資料作成について】

・発表資料の作成やアンケートの作成を通して、わかりやすい文章を作ることや、見やすいものを作る工夫を意識していけるようになったと思う。

・スライド一つの内容で相手への伝わり方は変わるので、文字を大きくしたり、字数を減らしたりするなど、今後パワーポイントを作るときは意識したい。

【考え方・行動面について】

・自分で調べ、自分から進んで行動に起こす力が身についた。
・ネットの情報だけでなく、自分自身の考えと合わせて考えていく力が身についた。
・自分だけの考えだけでなく、人の意見を聞いて、考えを客観視してまとめることができた。
・どのような順番で説明したら相手に伝わるかを考えることを習慣づけたい。

＜課題研究ノートより＞

〇はじめは自分が何をすればよいのか分からず、ただ時間が過ぎるのを待つだけだった。しかし、興味があることを深く調べていくなかで自分のやるべきことを見つけ、仮説を立て、実践、検証するのはとても楽しく、ためになったと感じている。自分の考えや思いを人前に立ち発表できたことは、一番良い経験になった。

〇自分から積極的に行動し、市役所で話を聞かせてもらったり、実際に見学させてもらったりすることで、内容の濃い研究ができた。また、今回の研究で、自分が持っている夢に向けて知識を深めることができた。

〇課題研究を通して、研究テーマに関する知識だけでなく、自分の進路に対する考えを深めることができた。また、自主的に計画を立て、準備して行うことの大変さと大切さを学ぶきっかけにもなり、毎時間の研究や振り返りなど意識的に取り組めるようになった。これからも何かを調べたり研究したりするときには、課題研究で学んだことを活かして取り組みを進めていこうと思う。

８．成果と課題

＜成果＞

当初はテーマ選びや仮説の設定に苦労しながらも、生徒たちは教員の指導のもとに調査から発表まで責任を持って研究活動を行い、全員が最終発表会でその成果を披露することができた。最終発表会では、スライドの見せ方や話す内容、順番などにおいて、中間発表会や授業を通して試行錯誤してきた生徒たちの改善や工夫が見られた。コロナ禍では、事前の計画通りに進めることができず、また予定していた活動が中止になるなど、設定した研究目標をどのように達成するのか再考を迫られることもあったが、そのような状況もまた生徒たち自身が新たに方針を立て、研究を進めていく良い機会となった。また、この指定事業が始まって以降、１・２年次で取り組んできた校内外での活動を課題研究テーマとして設定し、内容を進化・発展させる生徒も出てきており、今後は３年間を通した探究活動の継続や内容面の充実が期待できる。

＜課題＞

昨年度・今年度と個人研究の形態で実施してきたが、一人で研究を進めることのできる生徒ばかりではないため、指導する生徒数に対して教員数が不足していると感じた教員も多かった。一方で、グループ研究にしてはどうかという意見に対しては、研究を人任せにしてしまう生徒がでてくることを懸念する声もあがっており、今後の活動形態については検討が必要となっている。どのような形態においても、「生徒が自分で研究を進め、深めていくことができる」ことが理想であり、教員は３年間を通して、その力を生徒が身に付けていけるよう指導していかなければならない。授業や特別活動など１年次からのさまざまな取り組みの積み重ねが、生徒たち自身で学びを発展させていく力へとつながることを意識し、その力の育成に向けて、今後も学習内容の検討やルーブリック評価の作成など改善を重ねたい。

④　ジオパーク学

１．概略

対象（単位数）：２年次（２単位）（学校設定科目・選択）

担当：理科、商業、地歴・公民科教員

※各生徒個人に室戸ジオパーク推進協議会専門員３名が研究支援者として指導

２．目標

世界ジオパークや自然、歴史・文化遺産、地場産業について学び、その資源を最大限活用することによる地域の活性化についての方法を学ぶ。地域を調査・観察する力、資源の活用方法を企画する力、企画したものを社会に伝えるプレゼンテーションの力を取得できるようにする。

３．年間指導計画

学期	月	日	回	学習形態	学　習　内　容		時間
一学期	4	19	1	学習	オリエンテーション１	ジオパーク全般について	2
		26	2	学習	ジオパーク活用事前学習１	ジオパークを活かした取組み例を学ぶ	2
	5	10	3	学習	ジオパーク活用事前学習２	ジオパークを活かした取組み例を学ぶ	2
		17	4	学習	ジオパーク活用事前学習３	ジオパークを活かした取組み例を学ぶ	2
		31	5	学習	ジオパーク活用事前学習４	ジオパークを活かした取組み例を学ぶ	2
	6	7	6	活動	ジオパーク活用事前学習５	ジオパークを活かした取組み例を学ぶ	2
		14	7	活動	ジオパーク活用事前学習６	ジオパークを活かした取組み例を学ぶ	2
		21	8	活動	テーマ別ジオパーク活用７	テーマ設定　・　グループ活動	2
		28	9	活動	テーマ別ジオパーク活用８	テーマ設定　・　グループ活動	2
	7	12	10	活動	構想発表	テーマ設定　・　グループ活動	2
二学期	9	6	11	活動	テーマ別ジオパーク活用９	グループ活動	2
		13	12	活動	テーマ別ジオパーク活用 10	グループ活動	2
	10	4	13	活動	テーマ別ジオパーク活用 11	グループ活動	2
		11	14	活動	テーマ別ジオパーク活用 12	グループ活動	2
		18	15	活動	テーマ別ジオパーク活用 13	グループ活動	2
		25	16	活動	テーマ別ジオパーク活用 14	グループ活動	2
	11	1	17	活動	テーマ別ジオパーク活用 15	グループ活動	2
		8	18	活動	テーマ別ジオパーク活用 16	グループ活動	2
		15	19	活動	テーマ別ジオパーク活用 17	グループ活動	2
		22	20	活動	テーマ別ジオパーク活用 18	グループ活動	2
		29	21	活動	テーマ別ジオパーク活用 19	グループ活動	2
	12	13	22	活動	テーマ別ジオパーク活用 20	グループ活動	2
		20	23	活動	中間発表	グループ活動	2

三学期	1	17	24	活動	テーマ別ジオパーク活用 21	プラン内容の確認や実践に向けての練習	2
		24	25	活動	テーマ別ジオパーク活用 22	プラン内容の確認や実践に向けての練習	2
		31	26	活動	テーマ別ジオパーク活用 23	プラン内容の確認や実践に向けての練習	2
	2	7	27	活動	テーマ別ジオパーク活用 24	プラン内容の確認や実践に向けての練習	2
		14	28	活動	ジオパーク活用の発表 25	プランの実践	2
		21	29	活動	ジオパーク活用事後学習 26	プラン作成から実践までの振り返り・１年間の学習内容の振り返り	2

５．研究の内容

研究のテーマ	発表概要
吉良川に人を呼ぼう！！	吉良川の良いところを紹介し、それらを活かした吉良川の魅力の伝え方を考え、発表した。
椎名を漁業で盛り上げる	漁業で有名な椎名で行われている漁業を紹介し、漁業を中心とした椎名の町の在り方の提案を行った。
食べて触って聞くジオパーク	視覚障害者を対象として室戸市の魅力を伝えられるようなガイドツアー案を考え、模擬ガイドツアーを行い、成果や課題を発表した。

６．発表会

日　時：令和４年２月 14 日

場　所：室戸世界ジオパークセンター

ねらい：室戸高校生が考えた地域に関するテーマを校内だけでなく、地域の方あるいはジオパーク推進協議会という行政に伝えることで高校生の取り組みを知ってもらい、地域と学校が協力して室戸市を盛り上げていく一助とする。

７．評価方法

評価規準	関心・意欲・態度	室戸の自然や歴史・文化等に対して関心や探究心をもち、科学的態度を身に付け、意欲的に探究しようとするとともに、地域の活性化や環境保全に関わろうとしている。
	思考・判断・表現	室戸地域に関係する課題を見出し、ジオパークの活動を通して地域の活性化や環境保全について考察し、導き出す過程や考えを適切に表現している。
	技能	室戸地域に関係する調査や観察または資料から得た情報を収集・選択して読み取ったり、図表や作品などにまとめたり技能を身に付けている。
	知識・理解	室戸の自然や歴史・文化等地域に関する基礎的・基本的な原理や事柄を理解し、知識を身に付けている。

８．成果

ほとんどの生徒が小学校の頃から室戸市に住んでいるため、室戸市の特産品や有名な場所については知っているが、魅力を伝えられるほどの情報量はもっていない。そこでまず１学期に幅広く室戸ジオパークに関しての学習を行い、基礎知識をつけていく。そして学習したことをふまえてより深めたいテーマを選び探究していく。生徒たちは、このように１年間の授業を通して探究学習を行うことで、調べたものに関してかなり詳しくなっていき、他者に魅力を伝えられるまでに成長する。

本授業では、探究の過程でジオパーク推進協議会の専門員の方に随時意見をいただける態勢が整えられている。その効果は専門員の方に意見をいただくだけでなく、専門員の周囲の方に意見をいただくことができるなど幅広くある。また、それ以外にも、地域の方にアポイントメントを取れれば、直接アドバイスをいただくこともできる。このようなことは、生徒の学習を深める一助となるだけでなく、生徒の交流の幅を広げたり、進路への意識を高めたりすることにもつながっている。

（２）地域と連携した活動

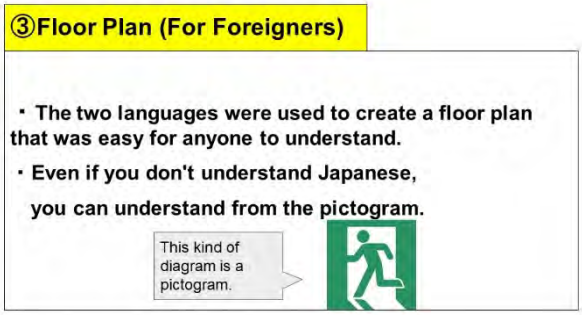
①防災探究活動

本校は室戸市最大規模の避難所であることから、これまでにも校内防災委員会を設置するなど防災・減災の取り組みを進めていくにおいて、室戸市役所をはじめとする地域との連携や意見交換を行ってきた。そういった活動の中で、「生徒や学校の地域貢献を目的とした地域との連携を推進するうえで、防災・減災をテーマにすることがいかに意義の大きいものであるか」についての気付きを「防災教育を軸とした地域との連携～生徒と地域のレジリエンスを高める取り組み～」として論じた。以下に、生徒の防災探究活動、そして地域協働学習実施支援員と協働で作成した教育実践研究論文を掲載する。

活動内容	ジオパーク学と福祉の教科間連携
日程	令和３年度　毎週月曜５・６限
参加者	ジオパーク学選択者、生活福祉系列福祉選択者
関係者	室戸ジオパーク推進協議会
概要	【テーマ】食べて触って聞くジオパーク ・商工業芸術系列のジオパーク学選択者と生活福祉系列の福祉選択者が行った。 ・視覚障害者に向けて室戸市の魅力を伝えるために室戸市の観光ガイドツアーを計画し、模擬ガイドツアーを行った。その際にはジオパーク推進協議会の専門員の方にもアドバイスをいただいた。
成果	・他校と情報共有し、内容について議論できた ２月４日に行われたユネスコ世界ジオパーク高校生国際交流会において、「持続可能社会の実現のために地域と協働して行っていることについて」というテーマで本校の代表として発表を行った。 ・専門的な学びを活かすことができた ガイド（案内）はジオパーク学選択者、介助は福祉選択者というように教科の特性を活かして行われ、生徒がそれぞれの分野で学習したことを実践する機会となった。
課題	・計画を実践に移すことができていない ツアー化して行政などに提案するところまで行うことができなかった。当該生徒たちは２年次生であるので、３年次でも引き続き探究活動を行うなどして、この探究をより深めてもらいたい。

活動内容	室戸市役所での探究活動プレゼンテーション
日程	令和３年７月２日
参加者	２年生２名（１年生２名：視聴参加）
関係者	室戸市役所防災対策課、地域協働学習実施支援員、室戸ジオパーク推進協議会
概要	令和２年度に数学Ⅰのデータ分析の授業で行った、南海トラフ大地震が起こった時に、どこに避難をするのか、効果的な避難の在り方について資料を読み取り、現状と対策を分析・考察するという取り組みについてスライドにまとめ、室戸市役所防災対策課の方々に対しプレゼンテーションする機会をいただいた。
成果	・室戸市の現状を知ることができた

	取り組みの一環として、室戸市の防災・減災対策の現状について調べ、改善点などについて提案を行ったが、道路の整備や避難タワーの備蓄など、こちらの視点で提案したことに対し、市役所が実際に行っている対策について直接お話を聞くことができた。 ・専門的な立場からのアドバイスをいただくことができた 考えや提案に対して専門的な立場からの意見を聞くことで、実際の防災対策の難しさを理解することができた。
課題	市役所の方々のお話を聞く貴重な機会をいただいたが、今回は地域協働学習実施支援員の協力を得て実施できたものの、こういった方の支援がない状況になった時にこのような機会を継続的に得られるのか、どのようにお願いをしていけばよいのか、継続性に不安が残る。

活動内容	ジオりゆう未来のために　～室戸の現状に応じた避難所運営を見据えて～
日程	令和３年 11 月～令和４年２月１日
参加者	２年生４名
関係者	室戸ジオパーク推進協議会
概要	「世界の国や地域における SDGs 達成のために、私たちができる、または実施しているアクションについて」をテーマに取組を行った。「体力の有無や言葉の壁によって，一部の人が避難や避難生活から取り残されないようにする」（細目 10） 「災害に備えることで，室戸をより安全で持続可能なまちにする」（細目 11） 室戸市の現状と実態を調査したうえで、高齢者と外国人の避難や避難所生活に役立つ情報を学び、実際にアイテムを制作した。 【課題解決のために自分ができるアクション】 ・蓄光テープの導入　・段ボールでベッドを作成 ・見取り図へのピクトグラム導入　・避難所の英語案内　・応急手当方法 
成果	①生徒の探究活動への意識の向上 １年次生から持続して防災に関する探究活動を行ってきて、自分たちで考えることだという自覚が芽生えた。災害に対して備えておくことを考えたとき、当初は行政にお願いすることばかりが案としてでていたが、２年次生からは自分たちにできることはないかという視点で考えられるようになった。 ②役割分担や探究活動に向けた取組姿勢の変化 自分たちで役割分担を考え、指示のみで段ボールベッドや見取り図を仕上げることができた。 ③生徒主体の振り返り 誘導しなくても生徒自身が考え、課題と成果を振り返る習慣が身についている。 ④多角的な見方の育成 高齢者や外国人にスポットをあてて考えた防災に関する探究活動だったが、ユニバ

	ーサルデザインを用いることで誰の立場でも助かるアイテムになるのではないかと考えることができた。災害時を考えていたが、普段からあれば便利なものだと実感したという意見が生徒から出るようになった。**「今備えておけば災害時に自分のことだけではなく他の人に寄り添う心の余裕ができる」**ということをこの探究を通して学ぶことができた。
課題	・新たな課題に対する解決策の現実化 　段ボールベッドを作るための段ボールの入手や保管が難しい、子供や女性への配慮を考える、コミュニティの場の確保をする、室戸市全体の避難所における生活水準を向上させる −地域と連携し、室戸市全体の防災意識の向上を目指す ・地域の方々が一緒になって考えなければならない課題だが協力を得るための手段がない。 ・時間の確保 　探究活動に費やす時間が多い。授業に組み込まれていないため、教員や生徒の負担が大きい。 ・専門機関との協力体制 　担当教員の知識やアイデアだけではわからないことが多い。大学や専門機関との協力ができれば理想的だと思う。

活動内容	避難所１日宿泊体験
日程	令和３年 11 月２・３日
参加者	１年生２名、２年生４名
関係者	堀江俊佑氏（自主防災組織運営者）、 地域協働学習実施支援員、室戸ジオパーク推進協議会、室戸市防災対策課
概要	実際に避難所に指定されている室戸ジオパークセンターにおいて、シャワー、トイレ、食事など全ての環境において震災後の避難所生活を想定した宿泊体験を実施していただくことができた。愛媛県で自主防災組織を運営されている堀江俊佑氏のお話を伺いました。簡易パーテーションを組み立てて寝床を確保するなどの体験が、今後の防災探究活動にも大いに活かされることを期待している。
成果	「このような体験をしてみたい」という高校生の声を地域協働学習実施支援員が拾い、室戸ジオパーク推進協議会の協力を得て参加することができた。学校主導では難しい企画も、地域の力を借りて実現できるということを実感した。企画を知り関心を示してくださった専門家の方や、室戸市防災対策課の方々の協力を得ることで、非常に貴重な経験をさせていただいた。この経験は、参加生徒のこれ以降の取り組み発表でも紹介し、地域と連携し、高校生が地域の中で経験を積んでいるという点が高く評価された。参加した生徒の探究活動への意識が高まり、その後の活動によい影響を与えた。
課題	今回は教員１名が参加したが、このような機会に、教員も関わることで更なる地域との連携の促進が期待できると思う。

室戸市指定避難所に泊まろう！

避難所１日宿泊体験

at室戸世界ジオパークセンター（室戸市指定避難所）

今後 30 年の間に 70％以上の確率で起こると言われている南海トラフ地震。多くの市民が避難所での生活を一時的にでも余儀なくされますが、どんな備えが必要なんでしょうか。この宿泊体験を通して一緒に考えてみませんか？

【日 時】 11 月２日（火）16:00~11 月３日（水・祝） 12:00
【場 所】 室戸世界ジオパークセンター２階セミナールーム
【参加費】 無料（1 泊の国内旅行保険を主催者が一括で加入予定）
【持参物】 非常持出用袋※こちらで内容の指定はいたしません。事前に参加者の方で準備していただきますようお願いいたします。実際の避難所生活を想定して宿泊体験を実施しますので、食料及び水のご用意も参加者の方でお願いいたします。
【講 師】 堀江 俊佑氏（佑 防災企画・製作　認定さすけなぶる FT1 期生）

参加にあたっての注意事項

1）被災時の避難所での生活を体験することを目的としています。シャワー、トイレ、食事などすべての環境は被災時を想定したものとなります。持参物をこちらで指定しませんので、食料、水等のご用意は参加者の方々でお願いいたします。なお、お弁当やコンビニで購入したお菓子・おにぎりなどの持ち込みは禁止いたします。食料については非常食として適したものに限定させていただきます。
2）参加者の方は事前に説明会を実施いたします。必ずご出席ください（日程未定）。
3）体験中の様子を写真や動画で撮影し、室戸ジオパークの各種媒体を通じて発信する予定です。また各種メディアにプレスリリースを発送する予定ですので、別途取材が入る可能性もございます。肖像権に関する同意書を提出していただきますので、予めご了承ください。
4）参加者の皆様には、「参加同意書」を提出していただきます（高校生以下の場合は、保護者の署名・押印が必要）。
5）当日は、講師の堀江氏と室戸ジオパーク推進協議会の小笠原が参加者の方と一緒に宿泊します。

会場：室戸世界ジオパークセンター

参加のためには「参加同意書」及び「肖像権に係る同意書」を提出していただきます。提出がない場合は参加していただくことができません。あらかじめご了承ください。

【主催】室戸ジオパーク推進協議会（担当：小笠原）
【問合】TEL: 0887-22-5161
Email: info@muroto-geo.jp

活動内容	島原半島スタディツアー
日程	令和３年 11 月 19 日―22 日
参加者	１年生３名、２年生３名、引率教員１名、室戸ジオパーク推進協議会職員１名
関係者	室戸ジオパーク推進協議会
概要	新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況が落ち着きを見せたタイミングで、室戸ジオパーク推進協議会が企画してくださった長崎県島原半島ジオパークに生徒６名が参加した。島原半島ユネスコ世界ジオパークの自然災害の歴史を学ぶとともに、長崎県立口加高校の生徒たちとの交流を通して、自然災害が人々の暮らしにどのような影響を与えたのかを知った。１年次生からは「室戸と島原お互いの課題を知ることができた」「室戸との地形の違いを知ることでどのように活用していくのか考えるきっかけになった」「火山による災害だけでなく火山による湧水や豊富な農作物の恩恵を受けているということがわかった」といった感想があり、今後他の室戸高校生の探究活動の刺激になるような良い経験ができた。
成果	今回参加した生徒は、これまでにも防災探究活動を行ってきた２年生と、他県のジオパークに関心を寄せた１年生であった。室戸市が必要としている地震や津波に対する備えと、島原市が必要としている火山に対する備えといった、異なる防災の取り組みを比較し、そこから自分たちの地域への更なる理解ができたことは大きな収穫であった。また、地域の高校生である口加高校生との交流、取組紹介においてもたくさんの学びがあり、本校生徒のその後の積極的な探究活動の推進へとつながっている。

2021 ジオパークスタディツアー 防災意識向上プロジェクト

unesco 世界ジオパーク

長崎県

島原半島ユネスコ世界ジオパークへ行こう！

【テーマ】島原半島ユネスコ世界ジオパークの自然災害の歴史について学び、
どのような対策が取られているのかを交流を通して知る。

【場所】島原半島ユネスコ世界ジオパークは、長崎県島原市・南島原市・雲仙市の３つの市を含むエリアです（左地図で赤く記されている場所）。

室戸とは全く違う火山活動の痕跡がエリア内の至るところで見られます。
自然災害の種類も室戸と異なるため、防災の取り組みにも変化があるかもしれません。

【参加費】交通費・宿泊費はかかりません。現地滞在期間中の飲食代のみ、自己負担となります。朝食、昼食、夕食等も予算的に高すぎないところを選びます。

【滞在期間】2021 年 11 月 19 日（金）～11 月 22 日（月）

【引率】小笠原翼（室戸ジオパーク推進協議会）
亀井樹奈先生（高知県立室戸高等学校）
大野希一氏（日本ジオパーク委員会委員・鳥海山飛島ジオパーク：現地引率）

【現地でのスケジュール】裏面をご覧ください。

【参加条件】
このスタディツアーは、生徒の皆さんは無料で参加できますが、旅費の一部は税金で支払われます。絶対に無駄にできないお金ですので、その意識が持てる生徒のみ参加してください。

1) 訪問の主旨を理解しており、防災の探究活動にこれまで関わったことがある、あるいは関わる意思のある生徒。

2) 全ての事前学習会に必ず参加できる生徒（クラブや他の委員会活動より優先してください）。
事前学習会日程：11 月 8 日（月）、10 日（水）、15 日（月）、18 日（木）
※口加高校にてこれまでの活動成果を発表する機会がありますので、その準備をします。

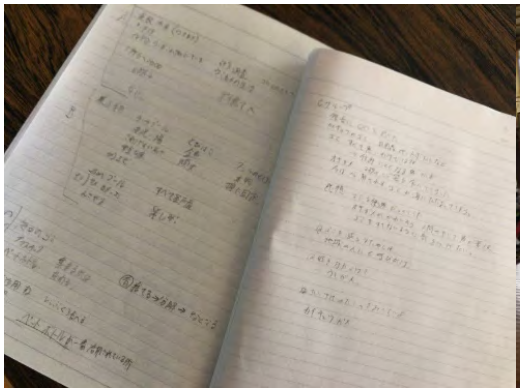
3) 滞在期間中、自分自身で考えて行動できる生徒。

4) 上記の条件を満たす生徒で参加を希望する生徒は、このスタディツアーお知らせプリントと一緒に配布される応募書類を北村教頭先生に 11 月 4 日（木）までに提出してください。

【問い合わせ】上記内容について、もっと聞きたい生徒は問い合わせてください。室戸ジオパーク推進協議会（0887-22-5161）までご自身の名前と学年を伝え、小笠原まで連絡してきてください。

② 小高連携

活動内容	①室戸高校学校紹介 ②オンライン探究活動発表会（１）小学５，６年生 ③イラスト教室　※「ボランティア」に掲載 ④樹木プレート共同作成　※「ボランティア」に掲載 ⑤佐喜浜町のチラシ作成　※「ボランティア」に掲載 ⑥オンライン探究活動発表会（２）小学３，４年生 ⑦避難所備蓄用うちわ作成依頼
日程	①令和３年　７月　７日 ②令和３年　７月 15 日 ⑥令和３年 12 月 16 日 ⑦令和４年２－３月
参加者	①③④⑤２年生３名（佐喜浜町出身生徒） ②２年生　８名　（英語表現Ⅰ） ⑥１年生 13 名　（国語総合） ⑦１年生　３名　（防災探究学習参加者）
関係者	室戸市立佐喜浜小学校 ⑦（一社）四国クリエイト協会、室戸ジオパーク推進協議会
概要	室戸市立佐喜浜小学校は「中山間における特色ある学校づくり指定事業」の指定校として、令和３年より２年間、コミュニティスクールを活用した特色ある学校、教育課程の推進などに取り組んでいる。その一環として本校との小高連携による「地域と連携しながら子供を守り育てる」ことを目的とした小高連携を進めてきた。以下が主な活動内容である。 ①室戸高校学校紹介 中学生向けに行っている学校紹介プレゼンテーションを小学生でもわかりやすく、関心を引くように作り変え、クイズ形式の質問も盛り込んで室戸高校を紹介した。５月に韓国ラオン高校との交流のために作成した学校紹介動画も見てもらい、「動画やクイズもあって、室戸高校についてよく分かった」という感想をいただいた。 ②オンライン探究活動発表会（１）５，６年生 Google Meet を活用し、佐喜浜小学校５，６年生が行っている、室戸廃校水族館についての調べ学習の成果発表（ポスター発表）を聞き、それに対する質問や意見を述べる活動を行った。 ③イラスト教室　※「ボランティア」に掲載 ④樹木プレート共同作成　※「ボランティア」に掲載 ⑤佐喜浜町のチラシ作成　※「ボランティア」に掲載

	⑥オンライン探究活動発表会（２）３，４年生 Google Meet を活用し、佐喜浜小学校の３，４年生が行っている地域探究学習の発表を本校１年生が聞き、質問や意見を述べた。今回は小学生が Google スライドを活用してプレゼンテーションを行ってくれたが、内容が非常に充実しており、発表の態度も素晴らしかったことから、高校生もおおいに刺激を受けた。  ⑦避難所備蓄用うちわ作成依頼 本校１年生が行っている防災探究活動における「避難所運営のストレスを軽減する取り組み」の一環として、被災時に避難所で生活する方々の励ましとなるようなメッセージを書いたうちわを作成することを計画し、その制作を佐喜浜小学生に依頼した。
成果	小学校と連携した活動はこれまであまり行ってこなかったが、小学生の発表の内容の素晴らしさに驚かされた。②⑥のオンライン探究発表会は、室戸市内の小中学校においても Chromebook が活用されていることから実現した。１回目の交流は質問や意見交換を深めることができていなかったので、２回目は国語科と協力し、国語表現の単元の目標を元にそれぞれの目標を設定した。 【本時の目標（めあて）】 ・小学生：小学生-高校生に内容が伝わるように発表する ・高校生-話し手に共感しながら聞くことができる このように目的意識を持って取り組むことで、より実りある活動になった。 ⑦については、室戸ジオパーク推進協議会の協力で（一社）四国クリエイト協会より支援を受けて購入したうちわ 50 本を活用した。依頼の際には高校生が作成した１分程度の活動内容やうちわ作成の目的を説明する動画を見てもらうなど、小学生にも活動の意図を理解してもらえるように工夫していた。
課題	このような活動は、関係教員のアイデアから生まれることも多く、互いに何ができるか、何をしたいかを提案しながら企画が生まれ、実行に移すという流れができている。そのため、担当する教員がどのようなアイデアを持っているか、あるいは、どれくらい児童生徒のアイデアや意欲を引き出せるかが成功のカギとなる。打ち合わせや目標のすり合わせ、下準備など、できるだけ担当者や児童生徒の負担にならないようにうまく計画、実行することが必要である。 ⑦のように外部団体からの協力や援助で行うことができた企画については継続は難しいかもしれないので、得られた機会を財産として生徒の活動の糧とし、大切に活用することが重要である。

活動内容	異文化理解出前授業
日程	令和３年５月 25 日、６月 22 日
参加者	３年生１名
関係者	室戸市立室戸小学校２年生、室戸市在住の日本語教師
概要	多文化共生社会の実現について課題研究を行っている３年生が「多文化共生社会の実現は、幼少期からの異文化理解教育が、多文化共生社会の実現のカギとなる。」というリサーチクエスチョンのもと、地域の小学校で異文化理解教育を実施した。実施前には地域でインドネシアからの漁業実習生にたいして日本語教育を行っている方から異文化理解とは、日本語教育とは、など様々なアドバイスをいただき、また、インドネシアの漁業実習生にインタビューをする機会も頂くことができた。１回目の授業は室戸市で実習を行っている漁業実習生について、２回目は生徒自身が訪れた、姉妹都市のポートリンカーン市（オーストラリア）での体験から、多様性について授業を行った。
成果	「生活」の授業で異文化理解教育が取り上げられているということで、今回は小学２年生の生活の授業を２回お借りして授業を実施した。授業を行った生徒自身が小学校教員を目指しているということで、授業の進め方や教材の作り方など、小学校の先生方に直接アドバイスを頂けたことは非常にありがたかった。その後、課題研究で行ったプレゼンテーション資料を見ていただいたり、児童や小学校教員に対するアンケートを実施させていただいたりと、地域の高校生だからできる、非常に貴重な経験をさせていただけた。本校生徒本人からは授業の難しさや、先生方の生徒への接し方などを間近に見ることで、将来への目的意識や目指す教員像を明確にする良い機会になったという声が聴かれた。
課題	今回本校生徒が長い時間をかけて練り上げた指導案、そして教材を活用し、できれば今後も異文化理解教育などを行わせていただきたいと考えているが、小学校のカリキュラムに基づく授業に、高校がどれくらい関わることができるのかが分からない。可能であれば小学校の先生方の負担を減らせるような連携の在り方があればよいが、結局のところ負担を増やす結果になるのではということでなかなか連携の話を進めることができないのが現状である。

（３）交流活動

活動内容	ポートリンカーン高校（オーストラリア）との姉妹校締結
日程	令和３年４月８日
参加者	各校関係者、室戸高校全校生徒
関係者	室戸市長、室戸市国際交流協会、PTA 会長
概要	令和２年度に姉妹都市締結から 30 年を迎える縁で、オーストラリア・ポートリンカーン市のポートリンカーン高校と姉妹校協定を締結した。体育館で行われたセレモニーでは、全校生徒が画面越しにポートリンカーン高校の生徒たちと対面し、互いの学校生活や部活動の様子を紹介した後、協定の署名を交わした。新型コロナウイルスの影響により直接的な交流が叶わない中、昨年度、両校の生徒たちは手紙の交換やオンラインを通して、交流を図ってきたが、今回の姉妹校協定を契機に、今後もコロナ禍における交流活動の在り方を模索し、より多くの生徒たちがコミュニケーションを通して互いを知り、学び合う機会を継続して設けていきたいと考えている。また、締結式で流した「交流のあゆみ」動画作成にあたっては、室戸市国際交流協会より写真提供の協力を頂いた。
成果	・交流活動の活発化 令和元年まで４月に訪問団を受け入れ、８月にポートリンカーン市訪問を継続していたが、コロナ禍により訪問ができない状況となり、オンライン交流を始めた。交流活動を継続的に行ってきたことから、継続的な交流を期待して姉妹校締結に至った。室戸市国際交流協会からも、これまで長年にわたり姉妹校締結について期待の声が上がっており、これまでの市の活動をさらに発展させることができたと感じている。
課題	・交流活動の内容の向上 現在は英語科を中心に行っている交流活動であるが、姉妹校ということで教科を越えた幅広い関わりを構築したい。

活動	ポートリンカーン高校（オーストラリア）とのオンライン交流 ①オンライン交流 ②オンライン交流 ③文化祭ライブ配信
日程	①令和３年６月 18 日 ②令和３年７月９日 ③令和３年９月 24 日
参加者	３年生 11 名（コミュニケーション英語Ⅲ選択者） ポートリンカーン高校生（オーストラリア：日本語授業選択者）
関係者	海外交流アドバイザー
概要	①日本の伝統行事の紹介 ポートリンカーン高校より、授業で日本の伝統行事について学んだことから、生徒たちに身近な伝統行事について紹介してほしいとの依頼を受けた。室戸高校生たちは、自

	分が紹介したい行事を選び、説明文（日本語・英語）とともに写真や実物を準備し、Zoom を使用して説明を行った。 ②ポートリンカーン高校生からの動画の視聴・返信コメント動画撮影 　後日、ポートリンカーン高校生から、オーストラリアの伝統行事を紹介する写真付きの説明文と動画を受け取った。生徒たちは、動画を視聴し、その内容に対して英語と日本語でコメントした動画を返した。 ③室戸高校文化祭ライブ配信 　室戸高校の文化祭の様子を、海外交流アドバイザー、ALT の協力を得て動画でオンライン配信をした。ポートリンカーン高校生から質問があればすぐに回答でき、本校の生徒とのやりとりもできた。日本の文化祭の雰囲気が伝わってとても楽しかったという感想をいただいたので、今後も継続的に行っていきたい。
成果	・自国、他国の文化理解 　自国の行事を紹介するための情報収集を通して、今まで当たり前に行ってきた慣習にどのような意味があるのか、なぜ行うのかといったことを初めて知った生徒も多かった。また、説明するにあたっては相手が理解しやすい日本語で表現する必要があり、日本語を母語としない人の立場に立って言葉を選び、考えるという経験ができた。 ・ICT の活用の推進 　生徒、教員ともに、互いが動画でメッセージを交換できる動画共有サイト Flipgrid を初めて使用した。動画を何度も見返して内容を聞き取り、字幕機能を活用しながら内容を理解しようとする姿勢、自分が送信するメッセージ動画は何度も撮り直して、より良いものを送ろうと努力する姿勢が見られ、インターネット上の機能を活用する利点を感じることができた。
課題	・学校間での日程調整 　時差や学期期間の違いから、日程調整が難しく、１学期だけの交流となってしまった。互いの学校のスケジュールやカリキュラムを年度当初に共有することが可能であれば、より多く交流する機会を設けることができると思われる。また、英語の授業計画に交流を前提とした活動を組み込むこともでき、実際の言語使用を意識した学びにつなげられるのではないかと考えている。

活動内容	ランカウイユネスコ世界ジオパークとのオンライン合同イベント
日程	①令和３年　４月 22 日「アースデイ」合同イベント ②令和３年 10 月 13 日「国際防災の日」合同イベント
参加者	①２年生 12 名（英語表現Ⅰ選択者） ②１年生 10 名（コミュニケーション英語Ⅰ） ①②ランカウイユネスコ世界ジオパーク地域の高校生
関係者	ランカウイジオパーク関係者、海外交流アドバイザー、室戸ジオパーク推進協議会
概要	姉妹ジオパークであるランカウイユネスコ世界ジオパークと協働し、国連で定められている「国際デー」を祝うための企画を行った。

①「アースデイ」

地球や環境のことを考え、環境保全について考えることをテーマに、アースデイを記念して各学校で行った活動を紹介し、質疑応答をとおして意見交換を行った。

②「国際防災の日」

「レジリエントな社会の実現のために」をテーマに、室戸市とランカウイの危機管理について、それぞれの地域の取組を紹介し、質疑を行った。ランカウイからは 2004 年に発生したスマトラ島沖地震の際の津波の様子、そしてその後の対策活動、そして室戸からは今後の発生が予測される大地震への備えの状況について説明を行った。

最後の質疑応答では、コロナ禍における学校活動についての質問も出るなど、現在の様子を共有する場面もあった。

・When the first wave of the pandemic swept across Muroto, how do you feel as a student?（パンデミックの第一波が室戸に押し寄せたとき、学生としてどのように感じましたか？）

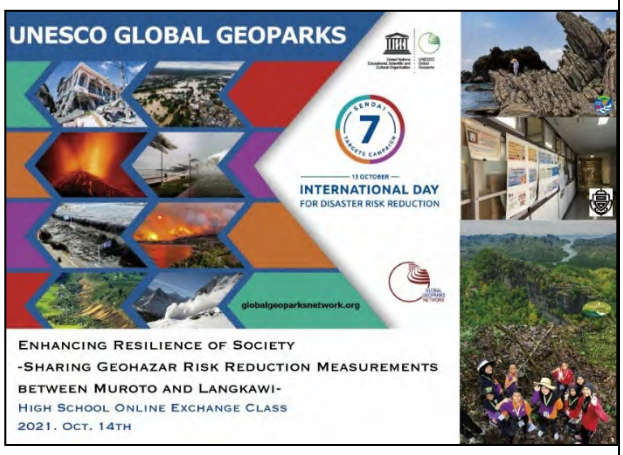
-We were very shocked, because when our school closed soon after we entered high school. And many events were cancelled.

What are actions taken by the students to reduce the impact of the pandemic in their life?（生活の中でパンデミックの影響を軽減するために、学生たちがとった行動とは？）

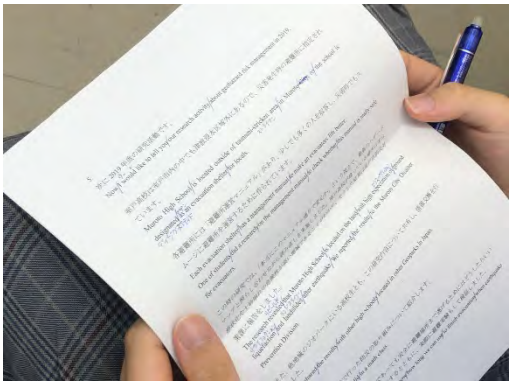
-We do many things. For example, we always wear masks and we eat lunch without talking with friends.

Are there any final messages for the students of Langkawi in order to reduce the impact of this pandemic? （このパンデミックの影響を軽減するために、ランカウイ島の学生たちに最後のメッセージはありますか？）

-We are very sorry that we could not visit Langkawi last year. We don’t know when we can meet in Japan or in Langkawi, but we all hope to keep our frienship and to overcome this situation together. （overcome: 克服する）



成果	２年連続で訪問は叶っていないが、姉妹ジオパークであるランカウイユネスコ世界ジオパークとの交流ができたことは、今後につながるよい取組であったと思う。いずれの回においても、「プレゼンテーション班」「質疑応答班」「校内放送班」「啓蒙ポスター作製班」の４グループに分かれて活動を行うことで、全員が何らかの形でイベントの成功

	に貢献できるようにした。また、当日は他の授業からの視聴生徒も参加し、活動の様子を見ながら感想を書かせるようにした。このように、今回は視聴で参加した生徒が次回は発表者として参加するという流れを作れば、取組の継続がスムーズに進むのではと期待している。 
課題	ジオパークに関係した活動においては海外交流アドバイザーが主導して企画・運営、そして生徒の助言も行った。ポスター作製や振り返りシートの作成など、教員が得意とする部分、企画運営はアドバイザーというように、役割分担をしながら進めることができたのでよかったが、今後教員だけでこのような会を企画・運営することは非常に困難であることが予想される。また、海外との交流ということで英語科教員にのみ負担がかかるという傾向もあるので、どのように役割分担をし、どのように継続していくかが課題である。

活動内容	アメリカで活躍する方々と室戸高校生の交流プロジェクト
日程	令和４年１月 19 日、１月 24 日
参加者	３年６名（化学課題探究選択者）
関係者	室戸市、JETRO サンフランシスコ支店
概要	日本貿易機構（JETRO）サンフランシスコ事務所所長の山下隆也氏より「日本の高校生とシリコンバレーで働く方々との交流」を題材にした企画のお誘いを頂き、本プロジェクトを開催した。テーマを「気候変動」及び「世界で働く」の２つに設定し、オンラインにて世界に拠点を置く方々と意見交流をおこなった。 第１回「気候変動」に関しては、生徒たちは地球規模の問題であることは理解できている。しかし、「室戸から世界規模の問題を解決することはできるのか」といった疑問を持つ生徒もいるのが現状である。室戸市のような小さな田舎町からでも気候変動への対策に携わることができるのか、室戸市だから「こそ」できる気候変動への対策法もあるのか、といった課題に対して、世界で活躍する講師の方に助言や意見等をいただいた。 第２回「世界で働く」に関しては、地方から世界で活躍する方を講師にお招きし、生徒の中にある世界で活躍することに対する素朴な疑問について質疑応答をおこなった。
成果	・グローバルな視点での物事の捉え方 アメリカのシリコンバレーに拠点を置く方々と交流することにより、世界で働くことに対する考え方が身近なものとなり、今後の進路選択においても選択肢が広がったという生徒もいた。 ・生徒の主体性の向上 オンラインでの交流ということもあり、開始当初はやや戸惑う場面もあった。しかし徐々に疑問や意見を交わすようになった。自分の意見や考えを言語化する力も身に付いた。

	・室戸市及び外部との連携 　本プロジェクトは日本貿易振興機構や室戸市から取材依頼をはじめあらゆる角度からご協力いただき、数多くのメディアに掲載していただいた。
課題	・全体共有の機会 　プロジェクト終了後に、企画に参加できなかった生徒たちに本内容を共有する機会があっても良かったように感じた。振り返りシート等を作成しておいても良かった。

活動内容	白嶺防災フォーラム 2021 への参加
日程	令和４年１月 28 日
参加者	１年生２名
関係者	主催：新潟県立糸魚川白嶺高等学校
概要	「防災･減災や地域探究活動に関する特色ある教育活動を行っている高等学校との交流をとおして、地域貢献の一環としての防災･減災教育や地域探究学習の充実に資する」ことを目的とした本フォーラムに、昨年に引き続き参加した。
成果	特に今年度は防災学習に力を入れてきたことから、他校の先進的な取り組みを知ることができたことは大きな収穫であった。
課題	本フォーラムには 11 月に長崎県「島原半島スタディツアー」に参加した生徒が参加し、室戸高校の取組だけではなく島原での体験を活かした議論ができることを期待していたが、実際には意見を述べる機会がほとんど得られなかった。そういった中でも、「このような学びがあった」という生徒の声を聞くことができた。

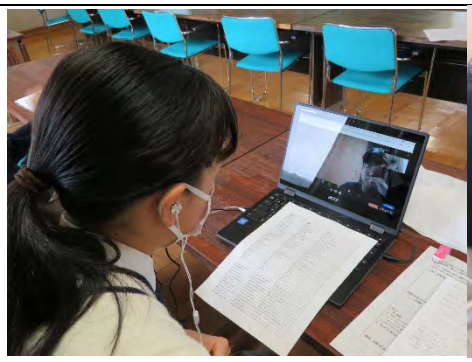
（４）ボランティア活動

関係者	室戸市立佐喜浜小学校
活動内容	①イラスト教室 ②樹木プレート共同作成 ③佐喜浜町のチラシ作成
日程	①令和３年７月 26 日 ②令和３年８月 23 日 ③令和３年８月 24 日
参加者	２年生３名
関係者	佐喜浜小学校
概要	①イラスト教室 ②樹木プレート共同作成 ③佐喜浜町のチラシ作成
成果	・高校生の「得意なこと」を活かした活動 　今回のボランティアに参加した生徒は、まず佐喜浜小学校出身であることから参加を決め、そこから「自分たちにできるボランティアは何か」と考え、得意なイラスト、そして授業でもプレゼンテーションで活用している Google スライドを使ったパソコン教室という内容に決定した。このように、ボランティアを行うこと、参加する生徒が決まってから内容を決定することで、それぞれの高校生の得意なことを活かした内容での活動ができることが分かった。今後も、今回のように「どのような内容であればできるのか」という視点からボランティアの内容を決めることは高校生にとっても得ることが多いと分かった。
課題	・継続性

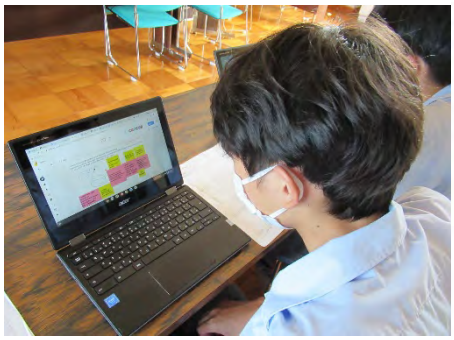
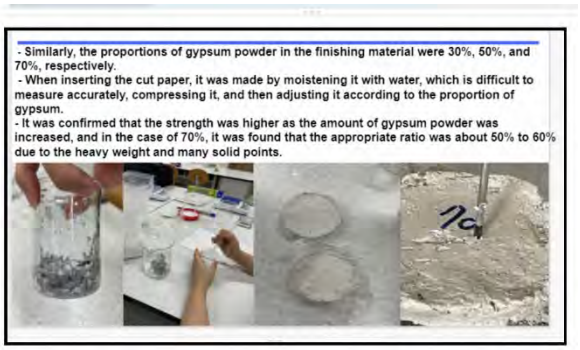
	今回は地域にゆかりがあり、自分で活動場所に行くことができる生徒が参加したが、ボランティア活動は場所や内容によっては実施に負担がかかるので、いかにして地域に密着し、高校生が自ら動くことができる内容にするかについても考える必要があると思う。教員や生徒の負担減こそが継続的な活動につながると思う。

活動内容	ハロウィンにマスクのプレゼント
日程	令和３年 10 月 29 日
参加者	２、３年生活福祉系列生
関係者	むろと保育園
概要	むろと保育園の園児が仮装をして本校を訪問し、「子どもの発達と保育」の授業を選択している生活福祉系列の２，３年生が園児たちを出迎えた。生徒たちは、園児たちへのご褒美に、３年次生を中心で製作した手作りマスクをプレゼントした。
成果	・地域貢献 本校の生活福祉系列の授業での活動を活かし、ボランティアにつなげるという良い流れができており、例年行われている活動なので、今後もぜひ継続して行いたい。
課題	・活動の広がり このように、毎年行っておりお互いの計画に組み込まれている活動は非常に少ない。授業での活動がボランティアや地域との連携につながるような関わりを今後も構築していくとよいと考える。

活動内容	ラオン高校（韓国）とのオンライン交流
日程	①令和３年５月 17 日、６月７日、６月 14 日 ②令和３年５月 20 日、６月 10 日、６月 17 日 ※事前に各クラスの英語授業で韓国語講座（１コマ）を実施 ②期末試験終了後の授業時間を利用
参加者	①１・２年生 ②３年生
関係者	海外交流アドバイザー
概要	①オンライン交流 ラオン高校で日本語を学んでいるクラスの学生たちとオンラインによる国際交流を行った。生徒は一人一台 Chromebook を使用し、Zoom にログインした状態で参加した。第一回目は全体で動画を用いた学校紹介を行った後、共有掲示板 Padlet を利用して、互いに感想を書き込んだ。その後はブレイクアウトルームに生徒を振り分け、生徒同士で韓国語・英語・日本語を用いて自己紹介をした。２回目と３回目はワークシートを用い、事前に生徒自身の目標や相手に聞きたい質問などを準備させた状態で交流を行った。 ②お菓子の紹介・交換 日本と韓国のそれぞれの生徒たちが、小さいころから慣れ親しんできた駄菓子や菓子を選び、紹介文を添えて贈り合った。

	
参加者	１年次生：23 名、２年次生：８名（コミュニケーション英語Ⅱ選択者）、 ３年次生：10 名（英語一般ｂ選択者） ラオン高校生（韓国：日本語授業選択者）
成果	・言語およびコミュニケーションへの関心・意欲・態度の育成 　音楽やドラマを通して韓国に興味を持っていた生徒も多く、また英語以外の外国語に触れる機会にもなり、生徒たちは毎回の交流をとても楽しみにしていた。準備していた韓国語の発音が通じなかったり、言いたいことが言えないもどかしさを感じたりしながらも、これまで学んできた英単語や簡単な英文を使用して意思疎通を図る生徒たちも多く、様々な言語を織り交ぜながら、会話が成立した時の喜びを強く感じることができた。また、対話の場面における好ましい態度について気づくことにもつながった。 　お菓子の紹介・交換では、実際に手紙やカードと現地のお菓子を手にして、交流をより肌で感じることができた。 （生徒の感想） 〇私は今回のオンライン交流を通して韓国に少し興味を持つようになりました。文字の作りもとてもおもしろいと思いました。１回目のオンライン交流ではすごく緊張しましたが、実際に会話をすると、韓国の生徒は私が話す日本語を理解してくれて、とても話しやすくて楽しかったです。私も、簡単な言葉は積極的に韓国語で話しましたが、難しかったです。私は３回のオンライン交流を通して学んだことがあります。それは、言語が違っても伝えようとする気持ちと積極性があれば会話できるということです。また機会があれば韓国の生徒と話しがしたいです。 〇私はこの交流を通して、人とコミュニケーションをとることは難しいけど、それ以上に楽しいということ気づけました。１、２回目は相手が男の子でしたが、私の名前を呼んでくれたり、積極的に話しかけたりしてくれました。自分から積極的に行くことは勇気のいることだと思います。相手が積極的だと嬉しい気持ちになり、私も積極的に質問をしました。３回目は、初めて女の子と交流しました。みんな優しくて、私の韓国語を理解しようとしてくれて、とても話しやすかったです。私に言葉ができるだけ伝わるように、日本語で質問してくれたことが一番印象深いです。私は韓国語をあまり調べずに交流をしました。もう一度機会があるなら、もっと勉強をしてから話したいです。また、電波が悪いと呼びかけても反応がなかったり、言葉が通じなくてスムーズな会話ができなかったりもしました。画面越しの交流は楽しいことに変わりはないけど、少し寂しかったです。いつか、コロナや政治的な問題がなくなり、笑って会える日が来ることを心から願っています。
課題	・オンライン交流におけるマナーや規律の指導

	画面越しの会話では、声の大きさや速さ、タイミングなどが、対面とは異なっているため、お互いが黙ってしまうなど、なかなかテンポよく会話が弾まない生徒たちもいた。一部で、画面を映さない生徒や、返答してくれない生徒もいたことから、互いに気持ちよく交流するための最低限のマナーについて学ぶ機会を設ける必要があると感じた。 ・学校間での日程調整 時差や学期期間の違いから、日程調整が難しく、１学期だけの交流となってしまった。動画共有サイトなどを活用することで、年間を通した交流する機会を確保したい。

活動内容	ドンウォン高校（韓国）とのオンラインプロジェクト学習
日程	令和３年９月 10 日、10 月 15 日：オンライン交流 その他４コマ：事前学習（理科、英語の授業を活用）
参加者	２年生８名（英語表現Ⅰ）
関係者	韓国ユネスコ国内委員会、ACCU（ユネスコ・アジア文化センター）
概要	「2021 年度ユネスコ日韓教職員オンライン対話プログラム　将来を見据えたブレンド型学習　-ポストコロナ時代の SDGs の達成に向けて-」の一環として、韓国の高校生が SDGs１３「気候変動に具体的な対策を」をテーマに行った科学実験の成果を本校生徒と共有し、それぞれの地域における課題と対策を話し合った。 【テーマ】 「持続可能な開発とネットゼロ社会の実現のための提案」 -STEAM Activities at Dongwon & Muroto- ・微生物の量による生分解性ビニールの分解 ・発泡スチロール使用の削減を目的としたカキ殻の断熱材としての活用 ・ミールワームを利用したプラスチック分解 ・沿岸海流の分析を通じた海洋ごみの削減策  
成果	・ICT の活用の推進 当初は英語でのやり取りを計画していたが、内容が難しいために、資料の読み取りや情報共有など、英語だけではやり取りが十分にできないと思われる活動については Microsoft Translator や DeepL などの翻訳ソフトを活用した。ICT を活用することにより、言語の壁のために議論が深まらないといった状況を作ることなく意見交換を行うことができた。 ・教科間連携の推進 英語でのやり取りを行う前提で英語表現Ⅰ選択制を対象として実施したが、科学探究において政府の指定を受けているというドンウォン高校の探究活動が専門的な内容だったので、本校の理科教員の協力を得て理科の授業内で実験内容の理解を深める活動を行った。交流当日も生徒のアドバイザー、講評者として参加していただいたこ

	とでさらに内容のある交流にすることができた。
課題	・振り返り活動の実施 プロジェクトを円滑に行うことに時間と意識を取られ、関係教員や参加生徒の振り返り活動を行う事ができなかった。今後このような活動を行う場合は、簡潔な内容で教員や生徒の意見を吸い上げて次に活かせる振り返りシートの作成をする。

（５）大会、コンテスト

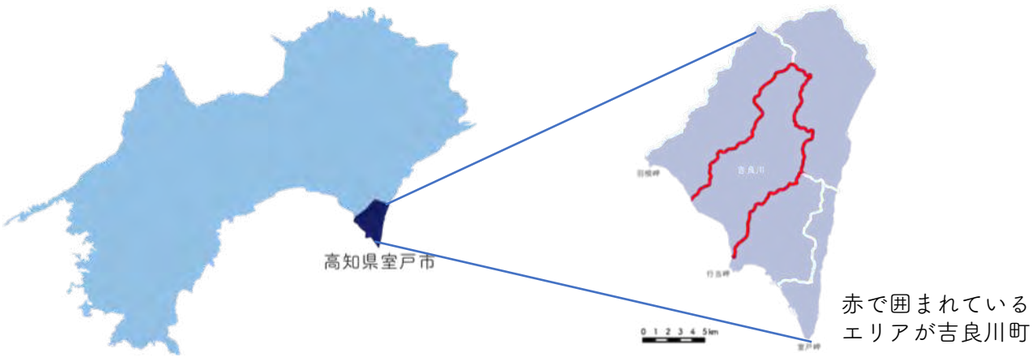
活動内容	第 11 回日本ジオパーク全国大会　島根半島・宍戸湖中海大会
日程	令和３年 10 月５日
参加者	２年生２名
関係者	主催：島根半島・宍戸湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会事務局 室戸ジオパーク推進協議会、地域協働学習実施支援員
概要	オンラインで行われた本大会に、防災探究活動を行っている２年生２名が参加した。予定ではポスターセッションであったが、オンライン開催になったためにポスターの内容をスライドにし、プレゼンテーションを行った。
成果	・生徒の成長 発表ではジオパーク地域の学生、関係者との質疑応答の時間もあり、積極的に質問をすることができた。また、ポスターやプレゼンテーション作成にあたっては室戸ジオパーク推進協議会の専門員が指導にあたってくださり、このような場での発表の仕方、ポスターの作り方など、高度なレベルで学ぶことができたことは生徒にとっても良い経験になった。質疑においても、自分の考えを述べ、しっかりと質問することができた様子に、生徒の成長を見ることができた。
課題	・継続的な参加 今後もこのような機会に、ジオパーク関係者や地域の専門家のアドバイスを受けながら準備を進めることができれば生徒にとっても大きな成長の機会となると期待しているが、地域協働学習実施支援員などの位置づけの方がいなくなっても継続的な指導や参加ができるのかが危惧される。

私たちにできること
-地震災害から命を守るために-

高知県立室戸高等学校2年　林　愛美　谷口　結菜

【目的】室戸市吉良川町の災害発生時避難路を調査し、あらゆる年代、条件の方が安全に的確に避難するための方法を考える

【調査場所位置情報：高知県室戸市吉良川町】



【南海トラフ地震とそれに付随する津波被害の想定】

1）今後３０年以内の地震発生確率予想70～80％
2）津波の高さ予想　　最大24メートル（沿岸部）
3）津波到達までの予想時間　数分～10分
（NHK NEWS WEB 2021.8.31 閲覧）

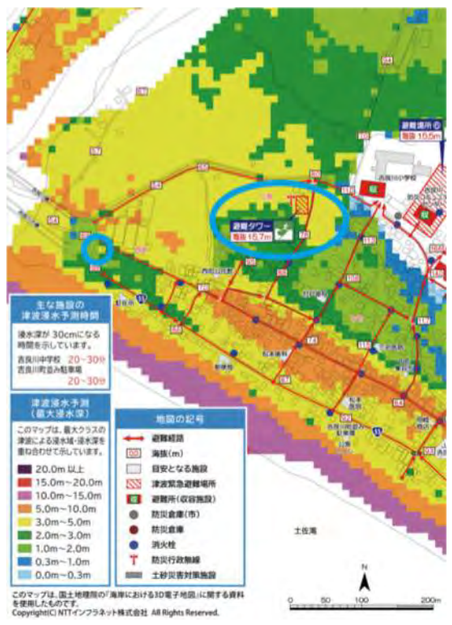
→地震災害にどう対応するのかは、喫緊の課題

【調査１】津波避難タワーまでの実際の避難時間を計測
２年次数学の授業を活用

活動内容
1）吉良川地区までの地震発生時の津波到達時間をハザードマップを使用し、安全に避難するための避難時間を計算。
2）その後、実際にその時間内で誰しもが安全に逃げられるかどうかを現地で調査

避難ルートの設定：全長約500m（右資料1参照）
スタート地点:吉良川町並み第二駐車場
ゴール地点:吉良川西町津波避難タワー（海抜15.7m）

条件によって下記3つのグループに分かれ避難
Aグループ：土地勘ありで車椅子補助チーム（避難時間：6分）
Bグループ：土地勘なしの女子チーム　　（避難時間：8分）
Cグループ：土地勘なしの男子チーム　　（避難時間：13分）



資料1

実際の検証時の様子

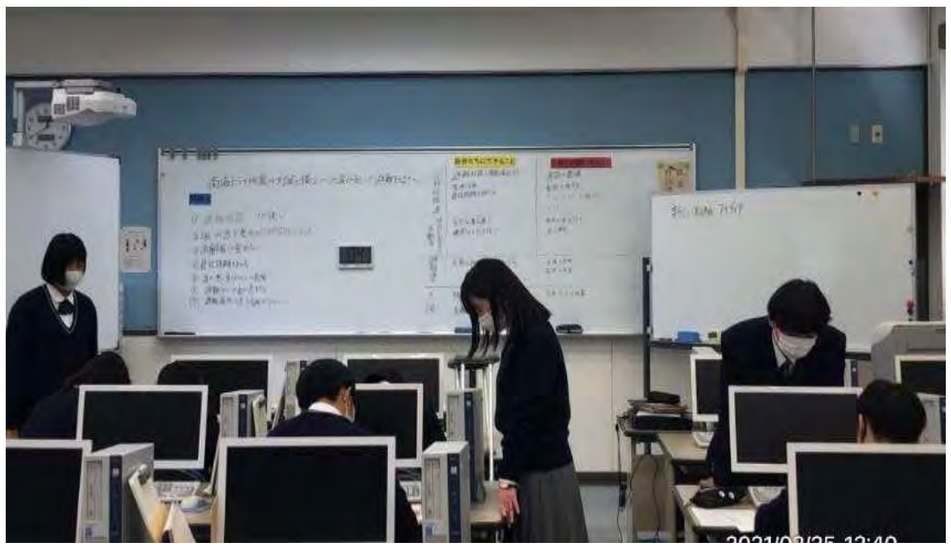
【調査結果】
土地勘ありとなしでは避難する時間に大きな差が生まれる。
※男子チームは土地勘がなく、誘導看板に従って避難していたが、途中で迷い津波避難タワーまでたどり着くのに時間がかかっていた。
※土地勘があるグループは、車椅子補助をしながらも目的地までスムーズに移動ができた。

導きだされた課題：
地域外の方（土地勘がない方）の避難の手助けの方法
※誘導看板だけでは不十分
※声掛けを意識した避難補助が必要

【調査２：調査結果を振り返り、課題出し】

調査１の結果について生徒たちで振り返るための授業を運営し、導き出された課題についても議論し、以下のように課題を整理。

課題1）避難経路の道路状況が悪い
段差（階段）がある・道幅が狭い→高齢者や車いすでの避難が難しい
課題2）避難誘導看板の位置
すべてが高い位置に設置されていたため、子どもでもわかりやすいように工夫が必要
課題3）津波避難タワーに屋根がない
避難時が雨天の場合、長時間の避難が困難（大津波警報が解除されるまでその場所にとどまる必要がある）



【調査3：室戸市防災対策課に調査内容と課題について報告】

調査結果から出された課題について、室戸市防災対策課に報告させていただき、職員の方から今後の活動に関して下記のとおり助言をいただいた。

課題1への回答
避難場所の高さを確保する必要があったことと、整備完了までの時間を優先した結果現状の形になっている。また車椅子専用通路の整備は、時間がかかり、難しい。
課題2への回答
「子どもの目線」という発想は今まで考えることがなく、新しい視点を教えてもらった。
課題3への回答
法律上、津波避難タワーには屋根がつけられない。飽くまでも津波から身を守る一時避難場所なので、雨風をしのぐ用途としては建設されていない。

【今後の課題1：土地勘がない方の避難の手助けの方法】

災害発生時の避難者同士での声掛けの重要性などについて、広く周知していくためにはどのような手段が効率的か考える。

【今後の課題2：車いす・高齢者・その他身体的ハンディキャップがある方の避難の方法を考える】

防災対策課からいただいた助言の中で、何らかのハンデキャップがある方の安全な避難方法については具体的な解決策が出されていない。今後はどんな工夫をすればハンディキャップがあっても効率的に素早く避難できるのかについて考える。

【謝辞】本調査の実施にあたり、室戸市防災対策課の職員の皆様には津波避難タワーの使用及び報告会の実施をご快諾いただきました。また調査結果に関して、今後の研究課題にもつながる助言をいただき、大変感謝しています。

活動内容	SPONGE キャンペーン（SDGs に関するプロジェクト発表） SPONGE Campaign（SDGs Project On Global Citizenship Education） Campaign for Practical Implementation of the SDGs in the ASPnet Community
日程	令和３年 10 月 29 日
参加者	２年生３名
関係者	主催：韓国ユネスコ国内委員会、ACCU（ユネスコ・アジア文化センター）
概要	本校教員が韓国ユネスコ国内委員会主催「2021 年度　ユネスコ日韓教職員オンライン対話プログラム」に参加したことをきっかけに本コンテストを知り、「SDGs を日常で実践するためのアイデア」動画コンテストで、これまでに作成したプレゼンテーションを”Approaches to Disaster Prevention through Mathematics（数学を活用した防災の取り組み）」で応募した。結果、世界 20 か国から 130 のエントリーがあった中、11 の Best Entries のうちのひとつに選ばれた。
成果	・生徒の経験値を上げる機会の提供 これまでは日本国内で行われた大会や発表会に参加してきたが、初めて世界規模のコンテストに応募し、賞を頂けたこと、そして代表として、プログラム閉会式にて日韓のユネスコ関係者やプログラム参加者が見守る中、プレゼンテーションの一部を紹介し、SDGs への関心についてのインタビューに答え、同時通訳で韓国語に訳してもらうということは、生徒にとっても貴重な体験となった。参加した生徒はその後の活動にも積極的に取り組み、現在では自分たちでアイデアを出し合い、様々な活動を進めている。
課題	・活動の広がり これまで、防災探究活動に関係した様々な取組を紹介してきたが、多くの活動には同じ生徒が関わっている。同じ生徒がいくつもの発表をし活躍しているが、今後この活動を広げて、より多くの生徒に発表の機会を得てほしいと考えている。しかし、そのためには生徒を指導し、自分たちで考え、自ら活動を進めるまでの成長を助ける教員の存在が不可欠である。生徒だけではなく教員間でも活動の広がりを期待したい。

活動内容	①高知県国際教育生徒研究発表大会「意見発表の部（日本語）」 ②四国国際教育生徒研究発表大会「意見発表の部（日本語）」
日程	①令和３年 11 月５日 ②令和４年１月 15 日
参加者	①２年生４名、３年生２名 ②３年生１名
関係者	海外交流アドバイザー
概要	令和元年に姉妹ジオパークであるランカウイユネスコ世界ジオパークを訪れた生徒

が、その訪問をきっかけにイスラム教に関心を持ち、そこから、課題研究での「多様性社会の実現」の研究、そして大学での宗教学の研究を希望するに至った過程について発表した。その内容は大会で高く評価されただけではなく、ジオパークを縁とした活動が将来の進路につながった好事例でもあるので、その内容を紹介する。

宗教観から見る日本の魅力

私は現在、学校の課題探究の授業で「多様性社会の実現」について研究をしています。今回、その研究内容の中のひとつ、「宗教観の違いを元に、日本の魅力を伝える」というテーマについて発表します。

「あなたの宗教は何？」

これは、私が高校１年次、マレーシアのランカウイ島を訪れた時に幾度となく聞かれた質問です。２年前の私は、「私の宗教って何だろう」と考え込んでしまって、うまく答えることができませんでした。けれど、マレーシアの人たちがイスラム教をとても大切にしていることは強く感じました。実際、2017 年から 2020 年にかけて行われた「世界価値観調査」にあるように、マレーシアは「イスラム教が 58%」、日本は「無宗教が 63%」と示されています。「無宗教と答えた人が 63%？日本人は本当に無宗教なのだろうか？」という疑問。これが、私が「宗教」に興味を持つようになったきっかけです。

同じく「世界価値観調査」より、「宗教はあなたの人生においてどの程度重要ですか」という質問に対して、「とても重要だ」と回答した割合ですが、マレーシアが 72.4%であるのに対して日本はなんと 4.6%です。マレーシアの人々にとって宗教がとても重要であり、人々がとても強い信仰心を持っていることが分かります。マレーシアのイスラム教人口は 58%なので、宗教に対する思いはイスラム教徒に限ったことではないということも分かります。

ここで、私が高校一年生の時に訪れたランカウイ島について少し紹介します。ランカウイの 85.6%がイスラム教徒です。ムスリムは１日５回のお祈りをします。私がランカウイの公立学校を訪問した時、お祈りのための部屋があることに驚きました。ホテルの天井ではメッカの方角を示す表示も見かけました。衣服ももちろん特徴的で、約９割の女性がヒジャブを着用していました。食文化も興味深かったです。豚肉料理はなく、鳥や牛、シーフードが中心でした。地元のスーパーでグミのハリボーがあったので買ったのですが、日本で売られているのとは味が違う気がしました。気になってハリボーに問い合わせてみると、マレーシアで売られているハリボーにはポークエキスが使用されておらず、牛由来のものを使用しているという回答をいただき、そんなところまで徹底しているんだと驚いたことでした。一方の日本ですが着るものや食べ物に関しては、宗教に基づく特徴を感じることはほとんどありません。お正月には初詣で神社に行って、チャペルで結婚式をあげる人も多いです。クリスマスには私もなぜかいつもワクワクします。

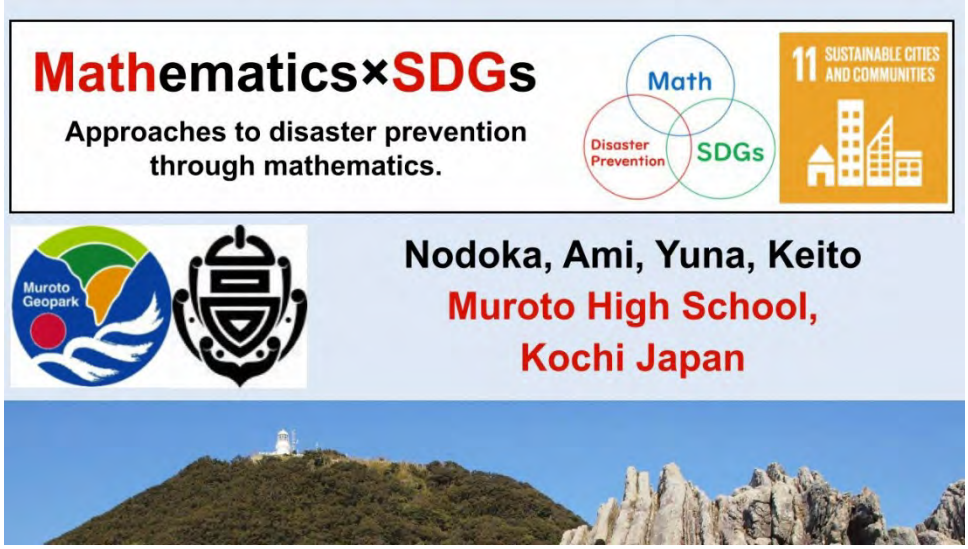
様々な宗教に関わるイベントを楽しみ、こだわりなく行動する日本人に対し、「これは日本人の宗教への『寛容さ』によるものだ。」と考える人もいるかもしれません。皆さんはどのように考えますか？例えば宗教学者の森本あんりさんはある記事の中で「『寛容』ではなくて、『どうでもいい』『何も考えてない』という意味での『無寛容』なのではないか。」と述べていました。マレーシアと日本、宗教に対する考え方が大きく異なります。ランカウイで私が幾度となく聞かれた、「あなたの宗教はなに？」こうした質問は、私がどのような価値観を持っている人なのかということを知るためのものだと思います。それに対する私の、「分からない」という答えには、おそらく「日本人の宗教観ってどうなっているんだろう？」と驚いたのではないかと思います。しかし、

	あるものの魅力とは、それが持つユニークさや興味深さ、また誰かの好奇心を掻き立てるものだと思います。イスラムの教えを強く守るマレーシアの方々にとって、日本人の宗教観はとても不思議でユニークに映るのではないでしょうか。 　最初に述べましたが、私の現在の研究テーマは「多様性社会の実現」です。価値観の違いを知り、興味を持ち、もっと知りたいと思う気持ちが相互理解の第一歩だと思います。私は、大学で研究をして、もっと論理的に、そして、分かりやすく、あなたの国も素敵だけれど、日本もこんなに魅力的なんだよ、と言えるようになり、様々な価値観や、文化的背景を持つ人たちが、互いの良さを認め合える社会の実現に、貢献したいです。 　この発表を聞いた人が、「違いは、自分と他者とを線引きするものではなく、おもしろいものなんだ。」と感じ、自分たちの文化を魅力として伝えたいと思ってくれること、そして、相手をもっと知るために、行動を起こしてくれることを、私は願っています。 【参考文献】 [1] WVS wave 7 (2017-2020): Haerpfer, C., Inglehart, R., Moreno, A., Welzel, C., Kizilova, K., Diez-Medrano J., M. Lagos, P. Norris, E. Ponarin & B. Puranen et al. (eds.). 2020. World Values Survey: Round Seven - CountryPooled Datafile. Madrid, Spain & Vienna, Austria: JD Systems Institute & WVSA Secretariat. https://www.worldvaluessurvey.org/WVSDocumentationWV7.jsp [2] International Social Survey Programme, Japan ISSP 2018- Religion IV Questionnaire, https://www.gesis.org/en/issp/modules/issp-modules-by-topic/religion/2018 [3]森本あんり「日本人は多神教だから寛容」通説は本当なのか 東洋経済 https://toyokeizai.net/articles/-/409378 （最終閲覧日 2021 年 9 月 2 日）

活動内容	JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2021
日程	令和４年１月 26 日
参加者	１，２年生全員（47 名）
関係者	主催：独立行政法人国際協力機構
概要	国際理解教育の一環として１，２年次生が国際協力に関するエッセイを書き、学校賞をいただいた。今回は定時制にも呼びかけ、定時制からも３名の応募があった。
成果	こういった機会での応募が、地域理解から国際理解へと多角的な視点を持つ機会になることを期待している。
課題	夏休みの課題の一環として応募作品の提出を求めているが、提出前に国際理解教育を行うなどして意識づけをしたり、提出後に授業などを使って内容を深めたりする機会がない。こういった機会を最大限に利用するために、事前、事後の指導に工夫をしたい。

活動内容	「Glocal High School Meetings 2022（2022 年全国高等学校グローカル探究オンライン発表会）」
日程	令和４年１月 29 日
参加者	（英語発表部門）　２年生４名 （日本語発表部門）２年生６名
関係者	主催：文部科学省指定グローカル型地域協働推進校探究成果発表委員会 協力者：地域協働学習実施支援員、室戸ジオパーク推進協議会
概要	**英語発表部門（金賞・審査員長特別賞）** 「Mathematics×SDGs Approaches to Disaster Prevention through Mathematics」（持続可能な室戸市を実現するための防災探究活動）」 【発表要旨】 　私たちは、数学「統計」の授業で室戸市の防災対策に関する数値データを分析し、被

害状況や防災対策の重要性を実感しました。また、自主的な避難訓練や避難所での宿泊体験を通してデータからは読み取れない震災の影響を自ら体験することができました。今回の発表では、資料から読み取ったことと、実際に体験したことを組み合わせて、地域の高校生として何ができるか考え、実際に行った取り組みを発表する。



日本語発表部門（銀賞）

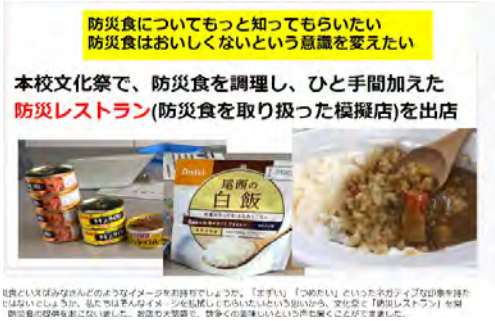
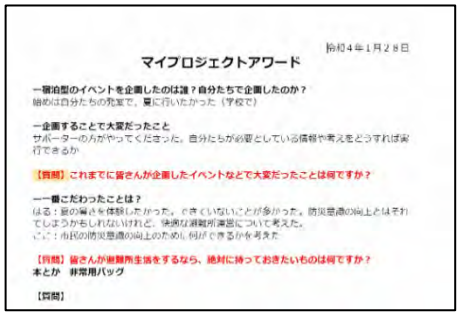
「ユニバーサルデザインツアー開発　～あらゆる人に室戸の魅力を伝えるために～」

【発表要旨】

学校設定科目の「ジオパーク学」と、福祉コースの「コミュニケーション技術」選択者が連携し、室戸ジオパーク推進協議会などの関連団体、施設への聞き取り調査も行いながら、視覚障害者を対象にしたユニバーサル・ジオツアーを開発しています。今回は室戸市の魅力を伝えるためのツアーの内容や開発過程について発表する。

成果	昨年度に引き続き「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」指定校、事業特例校、アソシエイト校が参加できる本大会に参加した。今年度は、昨年度から引き続き

	取り組みを行っている防災探究グループと、教科間連携を行っているジオパークツアー開発班が代表として発表を行った。他の学校の発表について相互評価する機会や、審査員からのフィードバックをいただくことで、自分たちの活動を振り返り、今後どのように探究をしていくかの方向性を考える良い機会になったという声もあり、これを機とした今後の活動の向上が非常に楽しみである。　以下審査コメント（抜粋） 【英語発表部門】 ・よく調べ、専門性の高いデータを用いて地域と協働して進めている。課題をどのように解決していくべきかが十分に示されていなかった。 ・授業で習ったことをうまく探究活動につなげていた。実験的活動を多く取り入れていたので説得力あるプレゼンに仕上がっていた。 ・実際に市へのプレゼンテーションを行ったことは評価でき、身近なテーマから自分たちのできることを考えていた。様々なタイプの障がい者の方や外国人の方への対応も視野に入れるとよい。 【日本語発表部門】 ・ユニバーサルツアーを企画するだけではなく、具体的に考えられているところがよい。今後は企業や観光課の方々を巻き込んで実現できるとよい。 ・自分たちが生活している地域に対する理解が深められている。また、学校の授業で学んでいることを活用できている点もとても良いと感じる。 ・動画のツアー内容について、室戸市の地域ガイドツアー関係者の方たちの意見を伺ってみてはどうかと思う。
課題	・取り組みの継続性 　これまでの取組、そしてその内容についての発表はいずれも非常に高い評価を得ることができたが、現時点で発表は「今後行いたいこと」で終わっており、実際に今後の活動に繋がり、継続しているかと言えば不十分である。今後も、同じメンバーあるいは下級生が引き継ぐ形で活動を継続し、さらに発展できるシステム作りが必要である。

活動内容	マイプロジェクトアワード　地方大会
日程	令和４年１月 29 日
参加者	１年生２名
関係者	地域協働学習実施支援員
概要	探究発表「室戸市民の安全を守る！防災探究活動」 　１年生が行ってきた防災に関する活動をまとめて発表した。これまで行ってきた、地域の防災施設視察、インタビュー、アンケートの実施、文化祭での防災食を提供する「防災レストラン」の実施などについてまとめ、避難所運営の在り方やこれから取り組みたい活動、将来の目標などと合わせて発表した。地方大会では他の参加者や大学生ファシリテーターとの意見交換やアドバイスをいただく機会もあった。  

成果	・活動をまとめて振り返る機会 　このグループはこれまで地域の防災施設視察、インタビュー、アンケートの実施、文化祭での防災食を提供する「防災レストラン」の実施など様々な活動を行ってきたが、その内容を発表する機会がなかったので、自分たちの活動をプレゼンテーションで振り返るよい機会となった。 ・交流を通した活動内容の向上 　本大会では、大学生によるファシリテーションのもと、他の参加高校生と意見交換したり、アドバイスをいただいたりする機会が豊富に提供される。そのような中で、自分たちの疑問や意見をしっかりと述べる参加生徒２名の姿に大きな成長を感じた。
課題	・「表現する力」の向上 　本大会に参加した生徒は、地域協働学習実施支援員の援助のもと、地域に根差した様々な活動を行ってきた。また、室戸市の協力を得て地域の 800 世帯にアンケート調査じ実施するなど、大きな規模での活動も行っている。そしてその活動から得たことも非常に大きい。しかし、そういった素晴らしい内容や、自分たちの持つ素晴らしいアイデアや問題意識をプレゼンテーションスライド上でうまく表現しきれていない部分があると感じる。今後、探究活動を行い、発表していく中で「伝え方」は課題の一つとなっていくと感じている。

活動内容	四国 ESD フォーラム 2022（日本 ESD 学会　第３回　四国地方研究会） 「ユース事例発表・交流」での発表
日程	令和４年３月６日
参加者	２年生３名（ジオパーク学受講者）
関係者	主催：四国地方 ESD 活動支援センター（四国 ESD センター）、環境省中国四国地方環境事務所四国事務所、日本 ESD 学会、愛大・ESD ラボ、愛媛大学教職大学院
概要	四国地方における ESD 実践事例の紹介、意見交換などを通して、これからの四国の ESD や持続可能な地域づくりについて一緒に考えることを目的として開催された本フォーラムには、本校の ESD に基づいた教育活動に関して指導助言をしてくださっている運営指導委員の方よりお声がけいただいたことで参加が決定した。 【概要】 高知県室戸市はその全域がユネスコ世界ジオパークです。その魅力を伝えるガイドの皆さんが抱える課題に、「バリアフリーガイドの実施」があります。私たちは選択科目の「ジオパーク学」受講者ですが、今回、室戸ジオパーク推進協議会など関連団体・施設への聞き取り調査も行いながら、生活福祉系列の生徒と一緒に、障害があっても楽しめる室戸岬でのガイドコースを作成し、模擬ガイドを行いました。あらゆる人に室戸の自然や食のすばらしさを伝えるための活動を紹介します。
成果	・生徒の活躍の場の提供 　運営指導委員会で議題として、「生徒の取り組みは活発に行っていても、その活動を広く知っていただく機会が少ない」という内容を挙げたことがあったが、本校のそういった悩みを受けて委員の方が今回のような貴重な機会を提供してくださったことは、地域のみならず幅広い方々と関わり、連携をとっていくことの大切さを実感する機会となった。 ・生徒の成長 　他の機会にも見られたことだが、何度の発表や質疑応答を重ねていくことで、生徒発表能力や、質問力の向上を実感できることは非常に大きな収穫である。
課題	・他の生徒への機会の提供 　このような機会をできるだけ多くの生徒に提供したい。

Ⅲ．次年度以降の自走の取組

指定校事業に係る組織がなくなり、学校の取り組みの内容を精査したり、進捗状況を確認したりする定期的な機会がなくなることで、これまで築き上げてきた協働体制が継続できるのかということが大きな課題であった。そこで、本校においては協働できるシステムづくりを行った。今後は以下に挙げる３つの体制を柱として、これまでに培ってきた地域との協働による教育改革を発展させていきたいと考えている。

１．室戸ジオパーク推進協議会との連携協定締結（令和３年７月７日）

これまでの本校の探究活動や国内外の地域・学校との交流において協働体制を築いてきた組織と連携協定を締結し、連携体制が個々の活動ではなく組織の活動になったことで、継続的な協働的活動が可能になった。

２．ユネスコスクールへの申請（令和３年 12 月 15 日～１年間のチャレンジ期間）

本校は既にユネスコ理念に基づいた教育活動を積極的に行ってきた。そういった活動が地域との協働の促進や本校の魅力化にも結び付いていることから、地域との協働を継続し、室戸高校の地域貢献活動や魅力を広く知ってもらう一つの手段として申請した。これを機に国内外のネットワークを広げ、ＥＳＤ教育を更に推進する。

３．コンソーシアムの組織と運営

令和４年２月４日開催の「ユネスコ世界ジオパーク高校生国際交流会」に係る準備会を共催（室戸市、室戸市教育委員会、室戸ジオパーク推進協議会）の関係者と一堂に会して月に１度行ってきた。その会では、各組織からの視点での意見や要望を活発に出すことができているため、今後は地域資源であるユネスコ世界ジオパーク、そしてそれに係る教育活動であるユネスコスクールとしての活動を地域と連携して行っていくためのコンソーシアム会議を組織・運営したいと考えている。

別添資料

（1）ビジュアル資料

高知県教育委員会事務局【高知県立室戸高等学校】　　令和元年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）

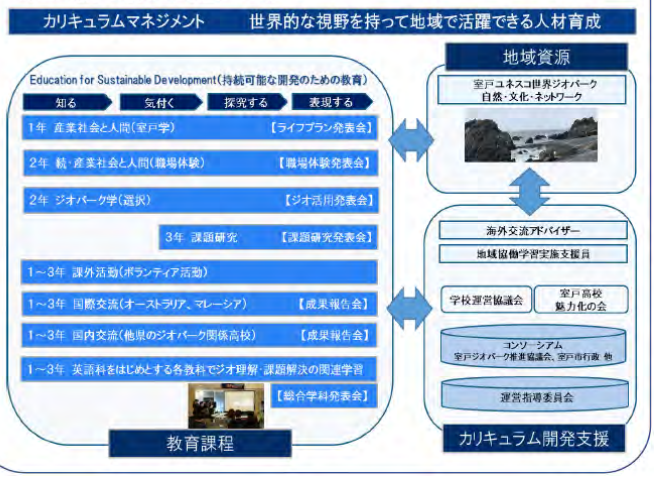
目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践　～ユネスコ世界ジオパークとともに～

研究開発の背景

本校が位置する高知県室戸市においては少子高齢化が急速に進み、将来、地域を支える人材育成が喫緊の課題である。室戸地域が、室戸ユネスコ世界ジオパークに認定されていることを生かし、その資源を有効活用し、国内外の様々な地域と関わる機会を提供することによって、グローバルな視野で物事を捉え、地域の課題を解決できる資質を持つ人材を育成する。

実施体制

キャリア教育に関わる特色ある科目の取組を発展させ、人とのつながりの深化、地域貢献、地域課題解決学習を行うため、コンソーシアムを組織するとともに海外交流アドバイザー等の配置や他組織との連携強化によってカリキュラム開発に取り組む体制をつくった。また、室戸ユネスコ世界ジオパークの素材、人的ネットワークを活用し、国内外の高校との交流を生徒が積極的に活動する機会を増加させた。



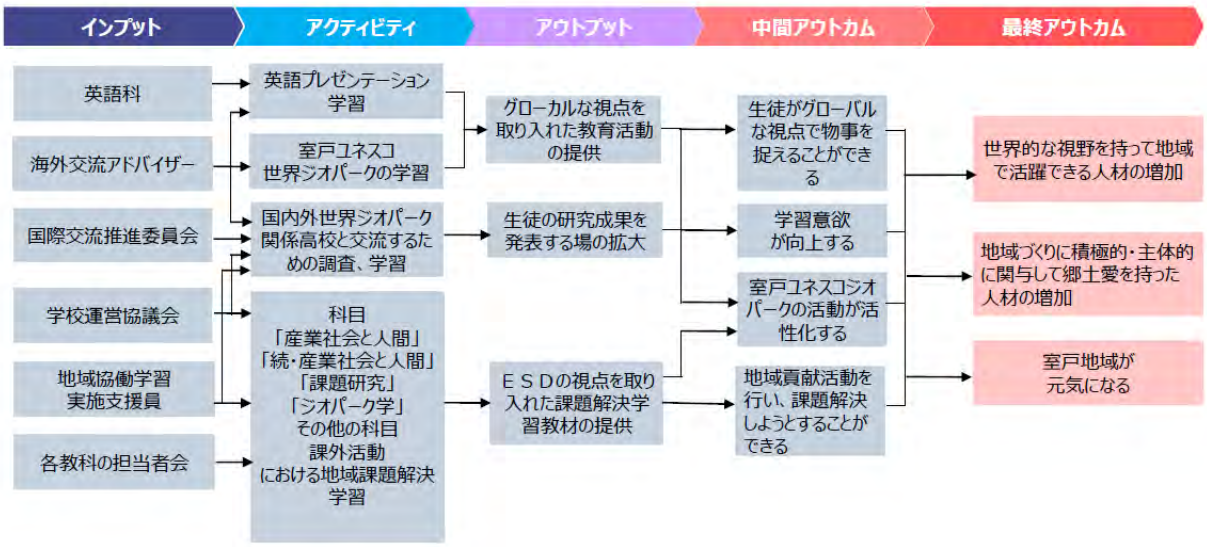
令和元年度の目標	取組状況
○地域との協働による探究的な学びを実現する学習を充実 「産業社会と人間」「課題研究」など	・地域の外部講師と協働で特色ある科目の授業実践と授業改善 カリキュラムの見直し
○地域行事への参加等、すべての教育活動により、地域を活性化し、地域の期待に応える	・地域の依頼や自主的活動により85％の生徒が地域貢献活動に参加
○国内外の世界ジオパーク認定地域の学校間との交流拡大 ・地元ジオパークの世界ジオ認定に寄与 ・さまざまな地域の生徒と関わり、グローバルな視点を持たせる	・口加高校、糸魚川白嶺高校マレーシア・ランカウイ高校などジオパークに関係する高校と交流し、地域振興について意見交換する機会が増大 ・生徒の成果発表も場も拡大

成果と課題

室戸ユネスコ世界ジオパークの資源である自然、人材、グローバルネットワークを生かし、授業改善や国内、海外交流の場の拡大、成果発表の場提供を行った結果、生徒の英語の学力向上、地元に関する関心・意欲の高まり、地域貢献活動等、自ら行動しようとする姿がみられたことが大きな成果である。

今後、できるだけ多くの生徒に地元、国内、そして国外の交流活動に参画する機会を与え、課題解決能力を高めることができるように、今後もカリキュラムを見直していく必要がある。

別紙：ロジックモデル（ひな形）



（２）研究開発概要

２０１９年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

<table>
<tr><td>指定期間</td><td>ふりがな</td><td colspan="4">こうちけんりつむろとこうとうがっこう</td><td rowspan="2">②所在都道府県</td><td rowspan="2">高知県</td></tr>
<tr><td>2019～2021</td><td>①学校名</td><td colspan="4">高知県立室戸高等学校</td></tr>
<tr><td rowspan="3">③対象学科名</td><td colspan="5">④対象とする生徒数</td><td colspan="2">⑤学校全体の規模</td></tr>
<tr><td>１年</td><td>２年</td><td>３年</td><td>４年</td><td>計</td><td colspan="2" rowspan="2">１学年定員 80 名。240 名の規模であるが、生徒数の激減による小規模校。</td></tr>
<tr><td>総合学科</td><td>34</td><td>19</td><td>40</td><td></td><td>93</td></tr>
<tr><td>⑥研究開発構想名</td><td colspan="7">目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践</td></tr>
<tr><td>⑦研究開発の概要</td><td colspan="7">ＥＳＤの視点で地域貢献につながる活動を体系化する。また、ジオパークを題材にした海外交流体験によるグローバルな視点を加えた、カリキュラム・マネジメントを開発し、本校がこれまで取り組んできたキャリア教育によって培われてきたキャリアを形成する基礎的・汎用的能力をさらに向上させ、将来、地域を担う人材を育成する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">⑧研究開発の内容等</td><td>⑧-1全体</td><td colspan="6">(1) 目的・目標
本地域は少子高齢化が急速に進み、市としては現在全国で５番目に少ない人口となっている。過疎化が進む本市に元気を取り戻すには、地域の人材育成に向けた組織的・継続的な取組が必要であり、その仕組みづくりが急務である。そこで、本研究においては、ユネスコ世界ジオパークに関わる地域唯一の学校として、その資源を有効に活用し、世界のさまざまな地域と関わることで、グローバルな視点で物事を捉えることができる資質を持つ人材を育てたい。また、総合学科ならではの教育活動の特色を活かし、郷土理解の学習を通して、地域の文化、歴史、生活、産業などに深い見識を持ち、将来、地域産業に関わり、地域産業に参画する人材を育てたい。
(2) 現状の分析と研究開発の仮説
平成 30 年度に、室戸ユネスコ世界ジオパーク日本ジオパークに再認定され、本校は地域教育や資源の保護・保存に大きな役割を担っている。そして、本校のこうした地域に根差した教育は、保護者、関係機関、地域の方々の多くの支援と協力により特色ある学習内容となっている。特に、世界ジオパークに関連する取組の多くは、「持続可能な開発のための教育」（ＥＳＤ）として、位置付けられつつある。
しかし、本校の教育活動は、世界的規模での取組にまでは至っておらず、今後の取組について開発していく必要がある。こうした中、現在本市は、国内のユネスコ世界ジオパーク認定地域との交流だけでなく、国外の認定地域との交流を計画しており、その交流内容の一つとして、高校生同士の継続的な交流の実現も模索されるようになった。すでに、ユネスコ世界ジオパーク認定地域のマレーシアのランカウイと姉妹ジオパーク協定を結び、ジオパーク推進協議会において、交流の実現に向けた協議を始めている。そこで、こうした状況を踏まえ、本校はこれまで取り組んできたキャリア教育の実践を検証し、ＥＳＤの視点をどのように取り入れ、今後どのように発展させるかを研究していく必要を感じている。今後、生徒たちが、海外の世界ジオパークの地域・国々と関わることができれば、国際的な視点で物事を考える力を育むことに繋がり、キャリアを形成する力になると考える。また、地元地域や国内のユネスコ世界ジオパーク地域での様々な取組を知り、伝える活動を通して、郷土愛が育まれ、将来地域を支える人材に育つと考える。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="6">(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画
本校では、総合学科の特色を活かし、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」を育成している。特に、１年次の「産業社会と人間」の学習による動機付けをもとに、３年間の学習計画を立案、実行できるよう心掛けている。</td></tr>
</table>

	⑧-2 具体的内容	また、多様な選択教科・科目を通じて、様々な知識や技能を養い、問題の解決や探究活動に主体的、協働的に取り組む態度を養っている。「産業社会と人間」の学習では、地域や産業界等と積極的に連携を図り、特に本校では、郷土理解を深める目的で、ジオパークに関連する学習を「室戸学」と名付け、基本的な知識を身に付けさせている。そして、２年次の「続・産業社会と人間」の授業に円滑に連結させるとともに、学校設定科目として開設している「ジオパーク学」の授業で、郷土理解をより深化、発展させ、郷土愛を育んでいる。３年次の「課題研究」では、生徒が自分で決めたテーマについて調査・研究し、様々な課題の解決に取り組み、その成果を発信することで、多様な他者との関わりの中で自己の将来の生き方や進路について深く考えることができる。 また、他者との関わりを大切にする本校では、全ての教育活動を地域貢献に繋げていこうとしている。生徒会活動や家庭クラブなど特別活動、学校行事や地域行事への参加、部活動、教科など、すべての教育活動が地域の活性化に連動し、地域を元気にする源となるよう取り組んでいる。特に、教科については、豊富な学校設定科目と幅広い選択科目を取りそろえ、少人数での授業も開設することで、総合学科の特色を最大限に活かしたカリキュラムにしている。 研究テーマである海外交流によるＥＳＤの取組については、全ての教育活動に連動する。ジオパーク関連の交流のため、学校交流だけでなく、地域での文化交流も大切であり、広い見識に立った活動になると考えている。特に海外との学校間交流を予定しており、報告会や発表会を通じて、ジオパークに関心のある多くの生徒に還元でき、地域課題を解決し、将来、新たな産業を生み出そうとするグローカル人材育成に寄与できる。 **(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制** 本校が行っているＥＳＤの取組は、「体験する」「気付く」「探究する」「発表する」という一連のプロセスに基づき、「室戸を知り、室戸のすばらしさを伝える」ことである。生徒たちは、室戸の様々な遺産を探し当て、まず、自分たちがしっかりと理解し、多くの人にその魅力を伝える学習環境を提供する。そして、本校のビジョンである「全ての教育活動を地域貢献につなげる」ことを目指したカリキュラム・マネジメントを行う。その際、キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」について、コンソーシアム等で協議する。 校内推進体制としては、従前から国際関係の取組を企画・運営してきた国際交流推進委員会をＥＳＤの視点で見直し、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員を加え再編成する。また、地域や関係機関との連携のため、室戸市教育委員会をはじめ、地域の企業、商工会、関係機関などの代表、約１０名の外部委員による学校運営協議会を構成し、企画運営への助言を計画している。一方、地域人材を活用した校外推進体制としては、「室戸市まち・ひと・しごと創生推進事業」に基づき、学識経験者を含むコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等に向けた取組と海外交流による効果的な人材育成に向けた取組の検討を進めていく。その際、高知県教育委員会が組織する運営指導委員会の指導により検証していく。 **(3) 必要となる教育課程の特例等** 特になし
⑨その他特記事項		本校は国内のユネスコ世界ジオパーク認定地域の鳥取県立岩見高等学校と、平成29 年度から生徒交流を開始している。平成 31 年度からは、ユネスコ世界ジオパークの他の地域への訪問を計画しており、交流を通して本校学習活動の内容の一層の充実を目指している。また、海外との交流については、室戸市の姉妹都市であるオーストラリアのポートリンカーン市との交流を 20 年以上続けており、毎年ホームステイによる２週間程度の短期交換留学で、授業や部活動等で高校生同士の交流を行っている。 本校は、こうした従前の国内外の交流経験を活かし、グローバルな視点でジオパーク関連の様々な取組を開発し、今後さらに充実させることが可能である。

（3）室戸高校版 ESD カレンダー

教科	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
コミ英I	単元	世界のことわざ	岩合光昭さんへのインタビュー	高校生が作ったサバ缶が宇宙食に	『クマのプーさん』に込められたメッセージ		消滅の危機にある世界言語	車いすで世界一周した三代達也さんのブログ	難民の子どもたちのためのサッカーチーム	分身ロボットで広がる未来	角野栄子さんとその想像力	SDGsに関するプレゼンテーション	
	カテゴリ	文化	災害・自然	教育	教育		文化	教育	教育	社会	仕事	社会	
			仕事					社会	文化		教育	資源・エネルギー	
生物基礎	単元	生物の多様性と共通性	代謝（植物と動物の関係）	遺伝（ゲノムについて）	遺伝（バイオテクノロジー）		恒常性（生命維持のしくみ）	恒常性（ホルモンの役割）	免疫（健康を保つしくみ）	免疫（感染症と人類の歩み）	生態系（多様性）	生態系（環境問題）	
	カテゴリ	災害・自然	災害・自然	災害・自然	仕事		健康	健康	健康	健康	災害・自然	災害・自然	
				社会	社会					災害・自然	資源・エネルギー	資源・エネルギー	
					経済					経済			
家庭基礎	単元	自分らしい生き方と家族	自分らしい生き方と家族／子どもとかかわる	子どもとかかわる／高齢者とかかわる	高齢者とかかわる／社会とかかわる		食生活とかかわる	食生活とかかわる	衣生活をつくる	衣生活をつくる	住生活を作る	消費行動を考える	
	カテゴリ	仕事	仕事	仕事	仕事		文化	健康	文化	資源・エネルギー	文化	経済	
		健康	健康	教育	健康		健康	資源・エネルギー	健康		災害・自然	資源・エネルギー	
			社会	社会	社会						資源・エネルギー		
現代社会	単元	民主政治の成立	日本国憲法 基本的人権・平和主義	日本の政治機構と政治参加			市場の仕組み	経済成長 金融	財政・租税 戦後の日本経済史	消費者問題・公害 労働者問題・社会保障	国際社会と国際平和	国際経済	
	カテゴリ	社会	社会	社会			社会	社会	社会	社会	社会	社会	
		文化	文化	文化			仕事	仕事	文化	文化	文化	文化	
			仕事				経済	経済	資源・エネルギー	資源・エネルギー	資源・エネルギー	経済	
			教育						経済	健康			
									災害・自然	経済			
保健体育	単元	健康の現状	健康の考え方	生活習慣病と日常の生活	喫煙・飲酒と健康		薬物と健康／感染症	性感染症とエイズ	欲求とストレス	心の健康	交通安全	応急手当／心肺蘇生法	
	カテゴリ	健康	健康	健康	健康		健康	健康	健康	健康	社会	健康	
		教育	社会	経済	教育		教育	社会	社会	社会	資源・エネルギー	災害・自然	
			文化	仕事			社会			仕事			
数学IA	単元	式の計算 実数	1次不等式	2次関数			三角比	三角比 場合の数	場合の数 確率		集合と論証	データ 図形の性質	
	具体例												
	カテゴリ	経済	社会	社会			社会	社会	社会		仕事	社会	
		仕事	仕事	経済			経済	経済	経済		教育	災害・自然	
			経済	資源・エネルギー								経済	
												健康	

（４）室戸高等学校地域協働学習コンソーシアム 規約

（名称）
第１条 本コンソーシアムの名称は「室戸高等学校地域との協働による高等学校教育改革推進事業コンソーシアム」（以下「コンソーシアム」という。）」とする。

（目的）
第２条 コンソーシアムは、室戸高等学校が目標とする地域を担う人材の育成と生徒により地域とかかわる学習の場を提供するための環境づくりを目指して、高知県教育委員会、地方自治体、民間団体等の地域の多様な関係者と教職員等、室戸高等学校関係者とが、協働体制を構築し、室戸高等学校が高等学校教育改革推進事業を円滑に行うことで、学校教育をより良いものにしていくことを目的とする。

（協働事業）
第３条 コンソーシアムは前条の目的を達成するため、次の協働事業を行う。
一 魅力的な学校づくりに関すること
二 地域協働学習プログラムの研究・開発に関すること
三 室戸高等学校の魅力の情報発信に関すること

（組織）
第４条 コンソーシアムは室戸高等学校と別表１に掲げる地域との協働活動に関わる団体等（以下「構成団体等」という。）により組織する。
２ コンソーシアムには、協働事業の方針を審議する代表者会を置く。
３ コンソーシアムには連絡調整を行う事務局を置く。

（代表者会）
第５条 代表者会は構成団体等が原則１名を推挙し、校長が委嘱する。
２ 役員の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
３ 代表者会に次の役職をおく。
一 会長 １名
二 副会長 １名
４ 会長は室戸高等学校長とし、副会長は会長が定める。
５ 会長は室戸高等学校に事務局を設置し、事務局長を選任する。

（会長、副会長の職務）
第６条 会長は、会務を総括し、コンソーシアム及び代表者会を代表する。
２ 副会長は会長を補佐し、その職務を代理する。

（代表者会の運営）
第７条 代表者会は、会長が招集する。ただし、緊急を要する場合においては、この限りでない。
２ 議長は会長をもって充てる。

（規約の変更等）
第８条 この規約やコンソーシアムの運営に関し必要な事項は、代表者会を経て会長が定める。

別表１（第４条関係）
団体名等

高知県教育委員会
高知県立室戸高等学校
室戸ジオパーク推進協議会（ＥＳＤ活動拠点センター）
室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
室戸高校魅力化の会
室戸市ＳＤＧｓ推進本部

付則 この規約は、平成３１年４月１日より施行する。
付則 この規約は、令和３年４月１日より施行する。

（５）室戸ジオパーク推進協議会との連携協定書

室戸ジオパーク推進協議会と高知県立室戸高等学校の連携に関する協定書

室戸ジオパーク推進協議会（以下「甲」という。）と高知県立室戸高等学校（以下「乙」という。）は、室戸ユネスコ世界ジオパークを活用した、教育をはじめとする取り組みについて、相互に連携し、持続的に発展させるために、次のとおり連携協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（目的）

第１条　本協定は、甲及び乙が、室戸ユネスコ世界ジオパークにおける活動や、ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）の推進のため、連携して取り組みを行うことで、ユネスコ世界ジオパークの理念が示す、教育活動を実現し、乙の生徒に課題発見と解決に必要な技能を身に付けさせ、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解して、社会性や郷土愛を醸成することを目的とする。

（連携事項）

第２条　甲及び乙は、前条に規定する目的を達成するために、連携して次の事項を推進する。

（１）総合的な探究の時間を中心とした教科横断型の授業でのユネスコ世界ジオパークが示す教育活動（地質、地形、民族、文化、歴史、国際協力、観光、ＥＳＤ等）に関すること

（２）室戸ユネスコ世界ジオパークの普及・啓発に関すること

（３）その他、前条に規定する目的を達成するために必要な事項

（秘密保持）

第３条　甲及び乙は、第２条に規定する連携事項の実施により知り得た相手方の非公表情報について、第三者に開示、漏洩してはならない。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りでない。また、甲及び乙は、第１条に規定する目的以外に相手方の非公表情報を使用してはならない。

２　甲及び乙は、前項の非公表情報について、本協定の連携に携わる担当者及びその管理を行う立場の者に限って取り扱わせるものとし、非公表情報を開示された者は、非開示情報を収録した文書、電磁的記録媒体等を他の資料及び物品等と明確に区別して保管し、善良なる管理者の注意をもって管理を行うものとする。

（個人情報の取扱）

第４条　甲及び乙は第１条に規定する目的を達成するため、個人情報を取り扱う必要がある場合は、それぞれ適用されている個人情報保護に関する諸法令及びそれぞれが定める個人情報保護に関する諸規程に基づき、個人情報を適正に管理しなければならない。

（知的財産の取扱）

第５条　甲及び乙が第２条に掲げる事項について連携することにより発生する知的財産、成果等の取扱に関する事項について、別途定めるものとする。

（有効期間）

第６条　本協定の有効期間は、協定締結の日から令和４年３月３１日までとする。ただし、本協定の期間満了の１箇月前までに甲乙のいずれからも書面による特別の意思表示のないときは、有効期間満了の日から１年間延長するものとし、以後もこの例による。

（その他）

第７条　本協定に関し、疑義が生じた場合又は本協定に定めのない事項が生じた場合、甲及び乙は誠実に協議し、誠意をもってこれを処理する。

本協定の締結を証するため、本協定書２通を作成し、甲乙記名押印の上、それぞれ１通を保管する。

令和３年７月７日

防災教育を軸とした地域との連携
～生徒と地域のレジリエンスを高める取り組み～

高知県立室戸高等学校
藤田　勇人

１．はじめに

平成28年の中央教育審議会答申によると、学校におけるカリキュラムマネジメントの３つの側面として、教科を横断した教員間の連携、学校教育の効果の検証と改善、地域と連携したよりよい学校教育の実現が掲げられている。業務が多岐にわたり、ややもすると負担感ばかりが増えてしまいがちな現場において、既に行っている教育活動をいかにして関連付けて実りある地域との連携を実践するかが大きな課題となっている。

本校は室戸ユネスコ世界ジオパーク地域に位置する唯一の高校ということで、探究の授業における地域学習「室戸学」や、ジオパークについて学び研究を行う学校設定科目「ジオパーク学」など特に世界ジオパークを柱とした地域との連携を推進している。しかし、探究科目での情報提供者や学校教育活動への協力者といった形式的な関わりで完結することも多く、継続的かつ協働的な関係性の構築が強く望まれていた。地域と学校が協働して、双方の持つ人的・物的資源を活かしながらより良いコミュニティを構築するうえで、防災教育を一つの軸として据えることは非常に有効であると考える。

指定避難所一覧

番号	避難所名	所在地	電話番号	地盤高海抜（m）	ライフライン 電気	水道	ガス	収容可能人数	確保可能面積（㎡）	水害
1	佐喜浜防災コミュニティセンター	佐喜浜町 1334-2	27-2069	14.5	○	○	○	18 人	57 ㎡	○
2	佐喜浜保育所	佐喜浜町 1336-3	27-2844	15.1	○	○	○	96 人	305 ㎡	○
3	佐喜浜小学校	佐喜浜町 1700	27-2810	9.0	○	○	×	432 人	1,306 ㎡	○
4	佐喜浜中学校	佐喜浜町 3848	24-4100	9.2	○	○	×	232 人	709 ㎡	○
5	佐喜浜生活改善センター	佐喜浜町 1694-1	27-3129	8.6	○	○	○	157 人	478 ㎡	○
6	佐喜浜市民館	佐喜浜町 4921-18 地先	27-2803	6.5	○	○	○	161 人	483 ㎡	○
7	三津防災コミュニティセンター	室戸岬町 1823	23-1201	13.4	○	○	○	17 人	51 ㎡	○
8	椎名集落活動センター	室戸岬町 533-2	98-7020	11.5	○	○	○	36 人	109.2 ㎡	○
9	室戸市中央公園相撲場	室戸岬町 6811	24-2882	64.1	○	○	○	36 人	112 ㎡	○
10	県立室戸体育館	室戸岬町 6811	22-2988	90.0	○	○	×	488 人	1,469 ㎡	○
11	室戸高等学校	室津 221	22-1155	25.1	○	○	×	1,604 人	4,870 ㎡	
12	大谷市民館	浮津 227	22-0819	13.0	○	○	○	90 人	276 ㎡	○

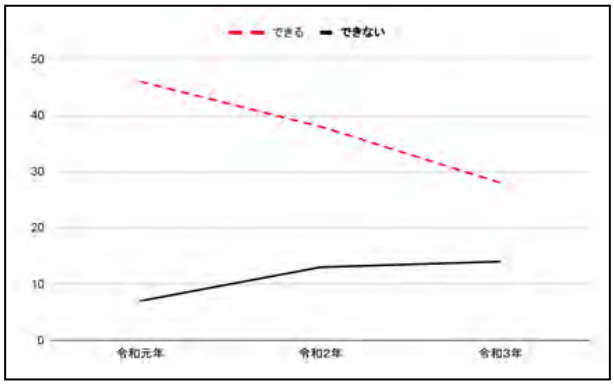
※室戸市防災対策課の令和３年９月現在の資料によると、室戸高校は室戸市内の指定避難場所となっており、4,870 ㎡の確保可能面積の中で1,604名の収容が可能ということになっている。収容人数においては２番目に多い室戸小学校（713名）と比較しても格段に多く、室戸高校の指定避難場所としての役割は非常に大きいことが分かる。

また、本校では防災教育の一環として年３回の避難訓練（シェイクアウト訓練含む）を実施し、２学期の訓練後には同じ質問項目でアンケートを実施し、毎年集計を行っている。

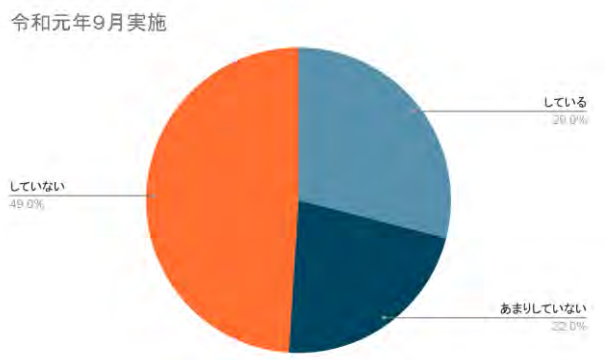
【質問項目】
1．あなたは地震発生時に自分で判断して身の安全を守ることができますか（家や建物の中にいるとき）。
2．あなたは地震発生時に自分で判断して身の安全を守ることができますか（外にいるとき）。
3．あなたが一人で登下校しているときに地震が起きたら、安全な場所に避難することができますか。また、できると答えた人は、避難しようと考えている場所はどこですか。
4．あなたは、地震などで避難した後に、家族と集合する場所を決めていますか。
5．あなたは、地震が来た時の備え（非常食や防災グッズ）を家庭で準備していますか。また、どのような備えをしていますか。
6．あなたが自身や災害に備えて今できることはありますか。また、あると答えた場合、できると思うことを答えてください。

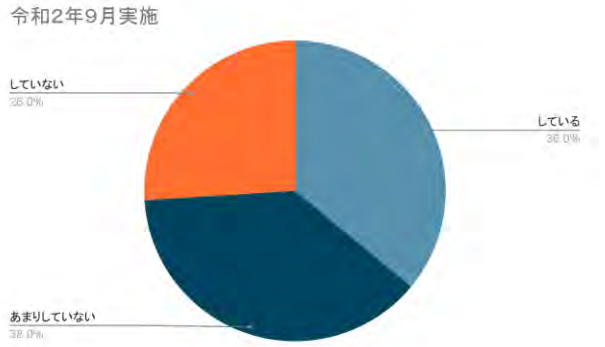
※アンケート結果３カ年比較（抜粋）

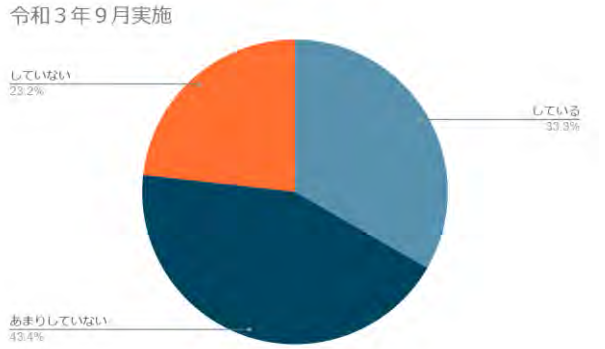
２．あなたが一人で登下校しているときに地震が起きたら、安全な場所に避難することができますか。



５．あなたは、地震が来た時の備え（非常食や防災グッズ）を家庭で準備していますか。







２の結果からは防災意識の高まりにより、災害時の行動への責任感や不安感が高まっているために、「できる」という判断のレベルが上がっているという考え方もできるだろうが、自助の意識や行動が育っているとは言い難いことが読み取れる。対して５の結果からは学校での防災教育に限らず、国や県を挙げての防災・減災の取り組みにより、生徒の防災意識、特に災害時に備えるという意識は全体的に高まっていると分かる。

２．実践内容

【防災委員会の設置】

本校は各クラス２名の生徒から成る防災委員会を設置し、避難訓練や校内防災意識アンケート調査を企画･実施している。また高知県津波サミットへの参加、被災地訪問などを通して他地域・他校の生徒と情報共有を行うことで広い視点で自然災害との向き合い方を考えている。学校内だけでなく、地域行政や民間団体と広く連携することで多様な取り組みを実践している。

【生徒による研究】

①　室戸高校避難所対応マニュアルへの提案

室戸高校は津波浸水予想区域外に位置することから、地震津波発生時の室戸市指定避難所となっている。各避難所には室戸市が「避難所運営マニュアル（以下、マニュアル）」があり、室戸高校の場合は室戸市と室戸高校が共同で作成している。

平成 30 年度に被災地である宮城県多賀城を訪問した生徒らが、そのマニュアルの読み直し研究に着手した。1）現状のマニュアル通りに学校を地域住民らに解放し、安全が確保されるのか、2）マニュアルには教職員の役割のみが書かれているが、高校生としてできることはないか、という問題意識が土台になっている。

研究成果は令和２年度日本地球惑星科学連合大会で発表するとともに、室戸市防災対策課職員の方を対象にした報告会でも共有した。報告会開催時にはプレスリリースを発行し地元新聞に取り上げられることで、室戸市全体の防災意識の向上に寄与する狙いがあった。

②　日本ジオパーク全国大会への参加

毎年開催される「日本ジオパーク全国大会」に先の防災研究を行った生徒を含む２名が参加し、「高校生が広げるジオパークネットワーク　～室戸ユネスコ世界ジオパークと協働の防災保全活動と国際連携を事例に～」とのタイトルで口頭発表を行った。

他ジオパーク地域からも複数の高校が参加しており、口頭発表終了後は長崎県立口加高校、島根県立隠岐高校、京都府立峰山高校の生徒らと互いの地域の地質・地形学的特徴について情報交換した。それぞれの地域で異なる自然災害の脅威がある一方で、自然がもたらす恵みも多様であり、それら恵みを利用することで生活が形成されていることなどを知る機会をもった。

③　長崎県立口加高校防災研究班との交流

長崎県立口加高校は、室戸高校と同じユネスコ世界ジオパークエリア内に位置し、生徒らで構成される防災探求活動チームがある。そのチームと室戸高校の防災活動及び研究成果について、令和元年度から直接及びオンラインで情報共有を行っている。

長崎県は火山をテーマにしたジオパークであり、地震をテーマとする室戸とは状況が異なるが、それは高校生にとって新鮮な発見であった。遠く離れ自然災害の特徴も異なるが、同じ「防災」というテーマの下で活動し、それぞれの経験を共有することは、お互いの活動の更なる発展につながっている。

④「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）」Glocal High School Meetings 2021（2021年 全国高等学校グローカル探究オンライン発表会）への参加

上記までの継続した防災探求活動のいわば集大成として、上記オンラインミーティングに参加し口頭発表を行った。室戸高校の防災の取り組みの特色は、それが室戸高校内で簡潔していないという点である。調査・研究時には室戸市防災対策課、室戸ジオパーク推進協議会の協力を得て情報収集を行い、地域の情報を取り入れている。探究活動の成果は国際会議や他校の生徒に報告し、それをメディアが取り上げることで、継続した研究活動のための新たな課題を得ることができる。そうした点が評価され、全国高等学校グローカル探究オンライン発表会では銀賞を受賞した。

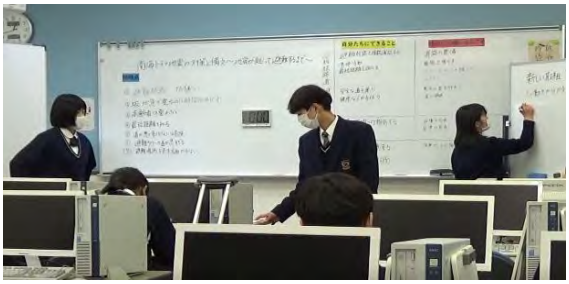
【教科における防災教育「数学× SDGs」】

１年生９名を対象に数学Ⅰのデータの分析の授業で実践を行った。南海トラフ地震が起こったときに、どこに避難をするのかについて資料を読み取り、予測と対策を考察させた。地域の課題として、津波の到達時間が早いことを想定し、高齢者，肢体不自由者，感染症対策、時間帯や人の動き等多くの課題について考えていかなければならないことを実感させ、予測と対策から被害を最小限にする手立てを自ら考えるようになることを目的とした。

データ分析の授業を通して地域の現状と実態を知り、そこから予測と対策を考えた。そして、実際に避難することによって新たな課題を発見し、振り返ることができた。数学とSDGs そして防災について関連づけて幅広い学習ができた。また、感想文を英文で書くことで英語科との教科横断的な学習にも結びついた。

また、今回の取り組みについてプレゼンテーション資料を作成し、室戸市防災対策課の方々に発表し、生徒からの提案に対して行政の視点での意見やフィードバックをいただくことができた。それらを合わせた取り組み内容についてまとめたものは、令和３年度の日本ジオパーク全国大会のポスターセッションでの発表が決定している。

（授業の流れ）

導入	○ジグソー学習について説明 ・自分たちの住んでいる地域の安全性は確かなものなのか疑問を抱かせる。（予想されている津波の到達時間や津波の高さを提示） ・時間帯や場所を設定し、各自で逃げる場所と地震への対策について理由を考えさせる。
展開	○ジグソー学習の実施 ・各グループに避難場所と地震対策を発表させる。 ・資料を読み取る中で地震や津波への危機感を持たせる。（地域ごとにみて人口に対するタワー数が足りていないことや最適な避難場所が存在するのかどうか等） ○避難訓練の実施 ・市役所の防災対策課の協力を得て実際に地震が起こり、津波がきたとしてタワーまで避難させる。 ・土地勘のあるグループと土地勘のないグループに分ける。（車いすを使った避難，防災リュックを持っての避難を含む） ・机上ではわからないことについて実体験を通して考えさせる。 ○動画編集 ・今までの学習をまとめたものを「私たちの地域や、国、世界の中の様々な課題を数学で解決するアイディア」として、一般社団法人SDGs プラットフォーム主催「私の数学のイメージ」表現コンクールに応募するため、SDGs の項目（11. 住み続けられる街づくりを13.気候変動に具体的な対策を）に照らし、１分間の動画を作成させた。
まとめ	○動画編集者に授業をさせる。 ・多くの問題点や改善策等自分にできることや行政にお願いすることを分けて考察させる。  ・全体で共有し、違った意見を知ることで、他の生徒や授業者に振り返らせる。問題点や改善策等自分にできることや行政にお願いすることを分けて考察させる。

	・全体で共有し、違った意見を知ることで、他の生徒や授業者に振り返らせる。 〇校内避難訓練での発表を行う。 ・９月に実施した避難訓練において、全校をあげての防災意識の向上を目的とし、全校生徒にむけて取組発表を行った。

３．今後の取り組み

災害時に自らの命を守る行動をとるためには学校や地域における安全教育の充実が必要不可欠であり、今後は現在の研究を活かして、迅速な自助行動がとれる生徒の育成、そしてさらには地域全体を巻き込んでの共助の体制作りの構築が課題となるだろう。

いかにして地域との連携を推進するかは学校運営において非常に重要な視点である。単なる情報提供者あるいはアドバイザーとしてのつながりは継続性に乏しく、それはより発展的な活動の困難さにもつながっている。強靭な横のつながり、協働体制の構築において防災教育は重要な鍵となる。

【教科横断的な防災教育】

高知県教育委員会は様々な危険から子供の命を守るための安全教育の指針「高知県安全教育プログラム」を策定し、その一環として各校における「安全教育全体計画」の作成が行われている。この計画においては学年ごとの重点目標やそれに関連する教科の主な領域や指導内容を示し、安全教育を軸とした教科間連携が促進できる内容となっている。本校でも「室戸高等学校　安全教育全体計画を作成しており、今後は本計画を活用した教科間連携を進めたい。

【縦と横のつながりの強化】

現在は室戸市や室戸ジオパーク推進協議会（令和３年７月７日連携協定を締結）との連携体制ができており、生徒の地域探究学習や学校の教育活動に対して人的・物的支援を頂いている。今後はその連携を強化するとともに、小中高といった校種間連を目指してたい。SDGs に掲げられている「１１．住み続けられるまちづくり」「１７．パートナーシップで目標を達成しよう」をキーコンセプトとし、「誰もが安心して暮らせる室戸市」を共に作り上げていくという意識を、地域唯一の高校である本校から広げていきたいと考えている。

４．おわりに

平成 28 年に高知県から「実践的防災教育推進事業」の指定校となり、本校生徒は室戸市防災対策課へのインターンシップ、校内防災委員会の設置（平成 28 年度）、高知県高校生津波サミットへの参加、HUG ゲームの開発（平成 29 年度）、マレーシアランカウイジオパークとの「国際防災の日」イベント実施（令和３年 10 月実施予定）など、様々な活動を行っている。

現在も各学年の防災委員を中心に、継続的な取り組みが行われている。2017 年高校生津波サミットで室戸高校生が行った大会宣言「私たちは繋ぎます、学校、地域、命を」の精神を、宣言から四年を経た現在も守り、継続していることは室戸高校の誇りである。

【関係ステークホルダー】

本校の教育活動に多大なる協力をくださっている組織の皆様に感謝するとともに、今後の更なる協働体制の構築へのご協力のお願いを申し上げます。

室戸市防災対策課、室戸ジオパーク推進協議会、室戸市観光ジオパーク推進課、室戸市佐喜浜浦地区自主防災組織、独立行政法人国立室戸青少年自然の家

【参考文献・資料】

・中央教育審議会会答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について』，　平成 28 年 12 月 21 日，https://www.bunkei.co.jp/kaitei/images/chukyoshin2017.pdf
・室戸市防災対策課『指定避難場所一覧』，https://www.city.muroto.kochi.jp/pbfile/m000276/pbf20210525110436.pdf
・高知県教育委員会事務局，学校安全対策課『安全教育参考資料「高知県安全教育プログラム」に基づく安全教育の充実のために』，令和３年６月，https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/312301/2021060100347.html

執筆責任者：大和田彩（研究主任・教諭）、小笠原翼（国際交流コーディネーター）、亀井樹奈（教諭）

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローカル型）

研究開発実施報告書　第３年次

（令和４年３月２２日）

【発行】
高知県立室戸高等学校
〒781-7102 高知県室戸市室津２２１
TEL：0887-22-1155　FAX：0887-22-3891
URL：http://www.kochinet.ed.jp/muroto-h
Email：muroto-h@kochinet.ed.jp